

令和6年度



ふるさとゆめのプロジェクト

事業報告書



令和7年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	令和6年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画	2
3.	4年生「町内お宝発見ツアー」	4
4.	5年生「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」	13
5.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	34
6.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って	49
7.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について	56
8.	おわりに	59

はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなか、地方の若い世代が大都市部に流出することにより、さらに予想を超えるスピードで少子化が進み、人口減少も加速しています。

北広島町では平成 29 年に「第 2 次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子ども・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業は、小学校事業で、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組、中学校事業では、各学校で地域資源を生かした取組を行っています。令和 2 年に発生した新型コロナウイルス感染症は、北広島ふるさと夢プロジェクト事業の活動にも大きな打撃がありましたが、それを乗り越え、今年度も対面で交流をしながら各活動を行うことが出来ました。こうした取組を通して、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子どもたちは感じています。この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子どもが育つことに繋がりたいと思っています。こういった事業はすぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねになります。子どもたちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

さて、本町は、今年合併 20 周年を迎えました。2 月 1 日の合併記念日を前に、昨年 11 月には記念式典を開催し、多くの来場者に祝っていただきました。今後も、北広島町を次世代につないでいき、継承していくことの大切さを改めて感じているところです。

これからの時代は、従来の価値観や技術にとらわれず、新たな発想と試行錯誤を繰り返し、未来を切り開く力が求められます。私たちには、ときに厳しい表情をみせる自然とともに暮らしてきた知恵と技術があり、先人から受け継いだ文化があります。未来を生きる子どもたちには、本事業を通して、これら地域の誇りを学び、それを礎にして激動する時代の中でたくましく生きていく人間に育っていくことを願ってやみません。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊長 箕野 博 司
(北 広 島 町 長)

令和6年度 「北広島ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい、子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町の定住対策として、教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したい子どもの育成」を目的とし、「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町の「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力を子供たちに再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。

全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町

主 管 北広島町教育委員会

組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員は、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員とする。

(事業実施については、教育委員会事務局及び校長会が主体となっていく)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	畑田 正法 (副町長)	増田 隆 (教育長)
隊員	中川 克也 (総務課長)	小椿 治之 (まちづくり推進課長)
	大本 賢一郎 (商工観光課長)	教育委員会職員
	川上 克己 (小学校代表)	森近 泰典 (中学校代表)
	江崎 繁 (小学校代表)	
事務局	植田 伸二 (事務局長)	細居 操 (事務局員)
	松長 二三枝 (事務局員)	

2 具体的な事業の目的と本年度の取組について

小学校事業については、年度当初に、教育委員会と代表校長で協議を行い、諸計画を作成する。

昨年に引き続き感染症の対策を万全にとりながら、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会及びロケット製作を行う。5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は学校間交流も含め実施する。4年生については、昨年度同様、町内の魅力を体験する「町内お宝発見ツアー」を学校毎に実施する。

■ 4年「町内お宝発見ツアー」

○町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとのよさを実感させる。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

- 民泊の1つのプログラムとして、自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。
- 児童同士が協働して体験をすることで、お互いの親睦を図り、課題解決能力や協働する力を養う。

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

- 植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 中学校事業

- 各学校ごとに「ふるさとを愛し、誇りをもつ心を育てる」ことを目的とした事業を行う。

4年生 「町内お宝発見ツアー」



令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト3・4年生 活動報告

新庄小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和6年9月3日（火）
【場所】 ユートピアサイオト
芸北高原の自然館・おーいの丘
【人数】 児童3年4人 4年5人 引率2人
【ねらい】

町内の自然を生かした体験活動や施設・企業の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。



【ユートピアサイオトでのジップライン】

2 活動の様子

2学期が始まってすぐ、3・4年生はお宝発見ツアーに行きました。青空の下で天候も良く、また、夏の暑さも残る中、子ども達が楽しみにしている活動がスタートしました。

最初は、ユートピアサイオトへ行き、ジップライン体験をしました。子ども達は、高い所から滑るのに、ワクワクドキドキでいっぱいでした。怖さもありながら何回か行ううちに笑顔も見られ、楽しさを味わいました。自然の中を心地よく滑る気持ち良さ、爽快感を感じることができ、よい体験になりました。

その後、八幡へ行き、高原の自然館とその周辺を散策しました。高原の自然館では、芸北に生息する動物や植物について、展示してある物を見ながら詳しく話を聞きました。そして、高原の自然館を出て近くを散策しました。初めて知ったこと、きれいな植物が咲いていることなど、子ども達にとってとても勉強になりました。



【みんなで ハイチーズ！】



【高原の自然館にて】

3. 児童の感想

○ジップライン体験では、スタートする時ドキドキしたけど、青空の中で気持ちよくすべることができて楽しかったです。

○ジップラインを見たら楽しそうだと思ったけど、こわかったです。でも、何回かやったら気持ちよかったです。北広島町にも、こんな体験ができる場所があると知りました。体験できてよかったです。また行きたいです。

○高原の自然館の周りを、説明を聞きながら歩きました。いろいろな虫や植物を教えてもらって、とても勉強になりました。くわしく知ることができてよかったです。わたし達が住んでいる地いきでも、いろいろな虫や植物をさがして観察したいです。



【八幡・おーいの丘散策】

4. 活動を終えて

楽しい活動になったことはもちろんのこと、自分達が住んでいる町内を訪れたことで、初めて知ったことや普段できない体験をしたことなど、どれも子ども達にとって貴重な経験となりました。故郷のよさを実感できた活動だったと思います。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト3・4年生 活動報告

本地小学校

1 実施した活動について

- 【期日】 令和6年9月6日（金）
【場所】 ユートピアサイオト、
八幡湿原、芸北高原の自然館
【人数】 児童17人 引率4人
【ねらい】

町内の自然を生かした体験活動や施設の見学を通して、ふるさとのよさを感じる。

2 活動の様子

ユートピアサイオトでは、ジップラインに挑戦した。

2班に分かれ、装備をつけ、練習コースで道具の使い方などを練習した後、コースへ出発した。練習コースとは違い、高さがあり、飛び出すのに勇気がいったが、みんなのかけ声で思い切って飛び出すことができた。全5コースを回り、風を切って、森の中を飛ぶ爽快感を味わった。

午後からは八幡湿原に移動し、初めに芸北高原の自然館を見学した。ガイドの方に八幡湿原のことを教わりながら、鳥のはく製を触ったり、鳥の鳴き声を当てたりし、様々な生き物の生態を知ることができた。

その後、八幡湿原を散策した。出会う昆虫や植物に興味を示し、ガイドの方にたくさん質問をしていた。おーいの丘では、みんなで声を合わせて叫び、やまびこを楽しんだ。

3 児童の感想

○ジップラインで一番楽しかったことは、二人で手をつないでジップラインをしたことです。最後のコースでは、「手をはなしてすべってもいいよ。」と言われたので、はなしてみると、風が手のひらまできてすずしかったです。

○芸北高原の自然館では、鳥の鳴き声を聞いたり、ツキノワグマのほねを見たりしました。ツキノワグマのほねが大きくて、びっくりしました。また、芸北にはきれいな花がたくさんあることも知れました。北広島町には、きれいな自然や楽しく遊べる場所があると知れてうれしかったです。

4 活動を終えて

同じ町内でもなかなか訪れることのない芸北地域に行き、初めての経験をすることができた。友達と経験できたことも嬉しい様子だった。児童は日頃から自然に親しんでおり、「これは見たことある！」などの声も上がっていたが、改めて知ることが多く、学ぶことが多かったようだ。北広島町のよさを感じることもできた活動となった。



【ジップラインにスタート！】



【二人でジップライン】



【芸北高原の自然館見学】



【八幡湿原の散策】

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

八重小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和6年9月13日（金）

【場所】 ユートピアサイオト

芸北高原の自然館

八幡高原（おーいの丘）

【人数】 児童21人 引率3人

【ねらい】

北広島町の自然を生かした体験や見学を通じて、故郷の良さを感じる。



【ジップラインの説明を聞く様子】

2 活動の様子

「ユートピアサイオト」では、2つの班に分かれ、職員の方に教えていただきながらジップラインの体験を行った。自然の中で活動する楽しさや気持ちよさ、友達と声を掛け合い協力することの楽しさを十分に感じることができた。

「芸北高原の自然館」と「八幡高原（おーいの丘）」では、トレッキングガイドの方に解説していただきながら展示の見学や散策を行った。見晴らしの良い丘の上でやまびこを楽しんだり、初めて見る植物や動物の足跡を熱心に観察したりするなど、実際に体験することで自然への興味が高まった。



【ジップライン体験】

3. 児童の感想

○ユートピアサイオト

- ・ジップラインがとても楽しかったです。理由は、高いところからスピードよく一気に下まで下からとても気持ちよかったです。
- ・ユートピアサイオトには、スキーをしに来たことがあったけど、スキー以外にもジップラインやバギーなど北広島町の自然を生かした体験ができるということを知りました。

○芸北高原の自然館・八幡高原（おーいの丘）

- ・ピンクのバッタがいると言われてみんなで探したけど見つけることができず、残念でした。
- ・北広島町特有の自然や生き物を見ることができて、たくさんの学びがありました。



【八幡高原を散策】



【芸北高原の自然館の館内見学】

4. 活動を終えて

ふるさと夢プロジェクトを実際に行い、子ども達は北広島町特有の自然環境や、自然を生かしたアクティビティなどを、実際に見たり触ったり体験したりと、意欲的に参加していました。子ども達の活動の様子や振り返りを見ると、「北広島町には自分たちが知らない場所や自然があることを知った」「北広島町には、こんなに楽しい場所があると知らなかった」など、北広島町の良さを知ることができた様子でした。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

豊平学園

1. 実施した活動について

【期日】 令和6年9月19日（木）

【場所】 芸北民俗芸能保存伝承館 北広島町まちづくりセンター
オオアサ電子 北広島町図書館

【人数】 児童18人 引率2人

【ねらい】

町内の自然を生かした体験や施設の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。



【北広島町まちづくりセンター】

2. 活動の様子

芸北民俗芸能保存伝承館では、実際に使われていた昔の道具などの展示を見ながら、北広島町に伝わる民俗芸能について学習を行った。

北広島町まちづくりセンターでは、施設内の各部屋の役割等について知ることができた。

オオアサ電子の見学では、オーディオスピーカー「Egretta」の製作に込められた地元企業としての思いを聞いた。

北広島町図書館では、図書館の見学を通して、司書の仕事や図書館の仕組みについて学習した。国語で学習中の「ごんぎつね」に関する展示が行われており、興味をもって見学することができた。



【芸北民俗芸能保存伝承館】

3. 児童の感想

○芸北民俗芸能保存伝承館には、春・夏・秋・冬のコーナーに分かれて、農業などの歴史について展示がしてありました。昔は、機械がなかったから、牛を使って農業をしていたことを知りました。田植え歌を歌いながら、大変な農作業を楽しくしようとしていたことも知りました。

○北広島町まちづくりセンターにはダンスをしたり、お茶碗を作ったりできる部屋など、みんなが活動するための部屋がありました。4年前にできた新しい施設でした。私も使ってみたいなあと思いました。

○オオアサ電子では、エグレッタの絵がサギだということを教えていただきました。箱の上に置くと音が大きくなる新しいスピーカーも見せていただきました。新しい商品を作る時には、作っている人がいろいろな工夫をしていることを知りました。学校の音楽室に置いてあるので、音をしっかり聞いてみたいです。

○北広島町図書館には初めて行きました。たくさん本があって、びっくりしました。図書に関するクイズや、読み聞かせをしていただきました。本の予約や調べものができたりすることも知りました。今度は、家族といっしょに本を借りに来たいです。



【オオアサ電子】



【北広島町図書館】

4. 活動を終えて

子どもたちは、図書館やまちづくりセンターなどの公共施設を利用する経験がほとんどなかったので、関わっておられる方の話を直接聞くことができる貴重な体験になった。北広島町内の企業についても知る機会となり、北広島町の新しい良さに気づくことができた。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

壬生小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和6年9月20日（金）

【場所】 戦国の庭歴史館 豊平総合運動公園

【人数】 児童23人 引率2人

【ねらい】

- ・町内の歴史に触れ、北広島町についての新たな発見や良さを実感する。
- ・地域の方との触れ合いを通して、地域の人へのあこがれをもち、学んだことをこれからの生活に生かそうという意欲をもつことができる。



【戦国の庭歴史館で説明を聞く児童】

2. 活動の様子

戦国の庭歴史館では、吉川氏や当時の生活などについての展示を見たり、解説を聞いたりした。体験コーナーもあり、中世の衣装や履物を身に付けたり、石垣の模型を組み立てたりするなどの体験ができた。最後に吉川元春館跡を見学した。実際に石垣を見ながら説明を受け、昔の人の知恵にとっても驚いていた。

豊平総合運動公園では、どんぐり北広島ソフトテニスクラブの中本裕二監督と高橋乃綾選手からソフトテニスを教えていただいた。中本裕二監督は、世界一になるために選手の皆さんがやってきたことを話された。子供たちは、中本監督の話を熱心に聞いていた。次に、実際にラケットを持ってソフトテニスをした。打ち方、受け方、サーブの仕方など一通りのことを教わった。子供たちは、高橋選手の世界一のサーブなどにとっても驚いていた。



【館内での集合写真】

3. 児童の感想

○私たちは、戦国の庭歴史館の人からお話を聞いたり、昔の物を見たりしました。私がびっくりしたことは、吉川元春の家の周りの石がきのならべ方が、おもしろいならべ方になっていたことです。なぜなら、小石や岩が使われていて、きそく正しいならべ方になっていたからです。私は、歴史がすきなのでこれからも歴史について知りたいです。

○私が一番心に残ったことは、高橋選手の世界一打てない球を打てたことです。世界一打てない球を4年生全員の中で2人打てたら帰ることができると言われて、「私は絶対打てないだろうな」と思っていたけど、打てたのでうれしかったです。ソフトテニスのボールは、もちみたいにやわらかくてびっくりしました。楽しかったです。また、行きたいです。



【中本監督の話を聞く児童】



【ボールを受ける児童】

4. 活動を終えて

子供たちは、歴史・スポーツの両面から北広島町の良さに触れることができた。戦国の庭歴史館の見学については、4年生には少し難しいかと思われたが、児童は意外と楽しんだ様子で6年生での歴史学習への意欲につなげることができた。どんぐり北広島ソフトテニス講習会では、ソフトテニスの楽しさだけでなく、目標を目指して努力することの大切さを学ぶことができた。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト 4年生 活動報告

八重東小学校

1. 実施した活動について

【期日】 令和6年9月27日（金）

【場所】 ユートピアサイオト・芸北高原の自然館・
おーいの丘

【人数】 児童14人 引率3人

【ねらい】

北広島町の自然を生かした体験や見学をして、ふるさとのおよさを感じる。



【ジップライン体験】

2 活動の様子

ユートピアサイオトでのジップライン体験では、インストラクターによる装備の確認や注意事項の説明がされた後、森の中に入りジップラインの活動を行った。練習コースを体験した後、65～147mの全6コースを回った。お互いに声をかけ合って応援し合ってコースに取り組む姿もみられた。活動を終えて、多くの児童から「またやりたい」、「楽しかった」、「お家の人とまた来る」などの声が上がった。

芸北高原の自然館では、八幡高原の散策を行い、八幡高原ならではの自然に触れた。全国でも珍しい生き物がいることに驚き、自然を発見・観察することを通して、より動植物に対して興味・関心を持つきっかけとなった。「おーいの丘」では、実際に大きな声を出して、やまびこが返ってくる様子を楽しんだ。



【ユートピアサイオトで集合写真】

3. 児童の感想

○ガイドの方に絶滅危惧種の生き物や外来種の生き物のことを教えていただきました。生き物の命を大切にすることということを山の中で学びました。みんなで、栗を拾ったり、普段はなかなか見られない山芋の生えているところを見たり、普段は見られない貴重なものが見られてよかったです。

○「おーいの丘」では、みんなで頂上に着いて、「おーい。」と実際に叫んだら、天に舞い上がるような気分になりました。

○北広島町は、自然が多くて珍しい生き物などがたくさんいたり、その自然の中でジップラインなどの遊びもできたりと、春夏秋冬いつ来ても自然の良さが分かるところだと思いました。



【八幡高原の散策】



【おーいの丘で集合写真】

4. 活動を終えて

今回の活動で児童は「北広島町のよさ」についてしっかりと考えることができたと感じる。事前に八重東地区の有田城址の自然の観察を通して、自然に対する興味を持たせて芸北地域に行ったことでより教育効果を高める活動になったと思う。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト4年生 活動報告

大朝小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和6年11月1日(金)
【場所】 北広島町まちづくりセンター
芸北民俗芸能保存伝承館
温水プール SuiSui その他運動施設
【人数】 児童15人 引率1人
【ねらい】

北広島町にある施設を見学することを通して、北広島町のよさを実感することができる。また、社会科で学習した『壬生の花田植』に関する話を聞いたり、実際の道具を見たりすることを通して、学びを深めることができる。

2 活動の様子

北広島町まちづくりセンターでは、図書館や貸し教室などの説明を受けたあと、地域の方の作品を見学させていただきました。様々な作品に児童たちは興味津々で、色々な作品に触れることができ、とても喜んでいました。

芸北民俗芸能保存伝承館では、花田植や花笠踊り、神楽について話を聞きました。社会科の時間に壬生の花田植について学習していたこともあり、とても興味をもって話を聞くことができました。また、授業で学んだことと結び付けて聞く姿も見られました。

温水プール SuiSui では、温水プール以外の施設も見学させていただいて、児童たちはとても満足そうでした。

ちゅピCOMの撮影では、自分たちも出演をするという貴重な体験ができました。今、頑張っていることについて発信することができ、よかったと思います。

3. 児童の感想

芸北民俗芸能保存伝承館では、社会の時間に勉強した『壬生の花田植』について学びました。実際の様子を教えてもらったり、使っていたものを見せてもらったりできたので、昔の人の暮らしについてよく分かりました。

私は、稲刈りなどは経験したことがあるけれど、田んぼを耕したことはないの、いつかやってみたいと思いました。

4. 活動を終えて

色々な施設を見学することができ、児童がとても嬉しそうでした。社会科の学習と関連付けて見学ができたので、児童にとってもよい学びになったと思います。また、自分たちの頑張っていることを生放送で発信するという貴重な体験もでき、児童も自信をもつことができました。



【芸北民俗芸能保存伝承館見学】



【北広島町まちづくりセンター見学】



【ちゅピCOM撮影】

芸北小学校

1. 実施した活動について

- 【期日】 令和6年11月26日（火）
【場所】 大朝テングシデ群落・オオアサ電子株式会社・
北広島町まちづくりセンター・ちゅピCOM
【人数】 児童17人 引率2人
【ねらい】

北広島町の自然や施設の見学・体験を通して、ふるさとのよさを実感させる。

2. 活動の様子

「大朝テングシデ群落」では、地域の方の話からテングシデの名前の由来や歴史、地域の方の思いを学んだ。児童は曲がりくねった枝の中からハート形の枝を見つけることを楽しんでいった。

「オオアサ電子株式会社」では、360°どこでも同じ音質で聞くことができるスピーカーの音を実際に聞かせていただき、その技術に感動していた。

「北広島町まちづくりセンター」では、館内を見学し、地域の方が様々な活動に利用されていることや誰もが使いやすいように工夫されていることを学んだ。

「ちゅピCOM」では、アナウンサーやカメラマン等を体験させていただいた。普段見ているテレビの裏側を体験することができ、児童は目を輝かせていた。

3. 児童の感想

- 大朝のテングシデ群落に行きました。テングシデという名前は、曲がったシデの枝の上に天狗が座るといふ噂があったからです。すてきなところは、世界に一つしかない群落だということです。
- 私が一番心に残ったことは、オオアサ電子株式会社に行ったことです。理由は、エグレッタというスピーカーや液晶パネルを作っているからです。ふつうのスピーカーは後ろにしていると聞こえにくいけど、エグレッタはどこにいてもよく聞こえます。
- 北広島町まちづくりセンターには、青の部屋や緑の部屋がありました。そこの部屋で、昼ごはんを食べました。図書館の本が2万冊あるということが分かりました。
- 私が一番心に残ったところは、ちゅピCOMです。カメラ体験で実際にカメラを持ってみると、けっこう重かったけど、カメラで撮ったのがテレビに映ることがおもしろかったです。カメラが重いのに、動画を撮る人は簡単に持てるのがすごいと思いました。

4. 活動を終えて

同じ町内でも、知らなかった場所や、知っていても行ったことのない場所が多くあり、児童にとってふるさとの良さを知るよい機会となった。自然、会社、公共施設と様々な視点で学ぶことができたのもよかった。



【大朝テングシデ群落】



【オオアサ電子株式会社】



【北広島町まちづくりセンター】



【ちゅピCOM】

5年生

「民泊体験～北広島のおさを満喫しよう～」

田舎暮らし体験



木工クラフト体験・スポーツ体験・せどやま体験



高校生との交流



川魚つかみ取り体験



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔5年生〕実施要項

「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～

- 1 期 日 Aグループ 令和6年6月4日～令和6年6月6日
 Bグループ 令和6年6月19日～令和6年6月21日
 Cグループ 令和6年6月26日～令和6年6月28日
 Dグループ 令和6年7月10日～令和6年7月12日
- 場 所 芸北文化ホール、芸北オークガーデン、芸北運動公園体育館、大暮養魚場、
 芸北地域民泊等
 ※芸北小：豊平地域民泊、木工クラフト体験、スポーツ体験等実施
 [芸北文化ホール]
 〒 731-2323 広島県山県郡北広島町川小田 10075-54 TEL 0826-35-0070
 [芸北オークガーデン]
 〒 731-2322 広島県山県郡北広島町細見 145-104 TEL 0826-35-1230
 [芸北運動公園体育館]
 〒 731-2322 広島県山県郡北広島町細見 10141-16 TEL 0826-35-1045
 [大暮養魚場]
 〒 731-2204 広島県山県郡北広島町大暮 85-3 TEL 0826-38-0734

- 2 目 的
 ○自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。
 ○町内の自然を生かした体験活動や民泊等の地域の方とのふれあいを通してふるさとのよさを実感させる。

3 対象児童 小学校5年生 110人

	Aグループ	Bグループ		Cグループ			Dグループ		
	6月4日～6日	6月19日～21日		6月26日～28日			7月10日～12日		計
学校名 (割当)	芸北	A 壬生	B 豊平	A 新庄	B 八重東	C 本地	A 大朝	B 八重	
男子	3	5	9	2	12	3	4	15	53
女子	5	10	11	2	7	6	3	13	57
児童数	9	15	20	4	19	9	7	28	110
班・児童数	2班 8人	6班 35人		6班 32人			6班 35人		20班 110人

4 日 程

(1) 1日目「対面式」

各学校より芸北文化ホールへの集合（芸北小学校は豊平支所へ集合）

[A:マ1 B:中2 C:マ1中1公1 D:マ1大1] ※マ:マイクロバス、大:大型バス、中:中型バス、公:公用車（数字は台数）

A:芸北小 [8:50] 徒歩で太田川森林組合へ移動、その後マイクロバス利用（8+先生）

B:壬生小 [8:10] =中型バス（15+先生）、豊平学園 [8:30] =中型バス（20+先生）

C:新庄小 [8:20] =公用車（4+先生）、八重東小 [8:15] =中型バス（19+先生）

本地小 [8:15] =マイクロバス（9+先生）

D:大朝小 [8:25] =マイクロバス（7+先生）、八重小 [8:20] =大型バス（28+先生）

※9時頃に会場に到着できるように、計画を立てる。

対面式・1日目の活動の流れ

各校 ～ 9:00 到着 各学校よりバスで芸北オークガーデンに到着後、指定場所に荷物を置く。

9:00 ～ 9:10 準備・整列

9:10 ～ 9:55 学校間交流

(9:35～9:50 せどやま体験についての打ち合わせ 担当：せどやまスタッフ、町教委)

9:55 ～10:00 準備・整列

10:00～15:20 せどやま体験

【開会】

①開会②児童代表挨拶③指導者より挨拶（スタッフ自己紹介含む）

【せどやまスタッフ進行】

④せどやま事業の紹介：資源・エネルギーについて⑤ボイラー、せどやま市場見学

⑥午前中の作業（様子を見て、適宜休憩）⑦昼食⑧午後の作業（様子を見て、適宜休憩）

⑨片付け

【閉会】

⑩児童代表挨拶⑪学校代表挨拶⑫指導者より挨拶⑬閉会

※参加に際して児童に持たせたい目的意識：「エネルギーや地球温暖化について学び、自分自身ができることを広げよう」

○閉会后、せどやま券を配布し、芸北ドルチェで使用（【重要】せどやま券使用については児童に伏せる）→民泊家庭が来るまで待機する。

15:20～15:30 準備・整列

15:30～16:00 対面式

①開会

②北広島町代表挨拶（役場支所長等）

③児童代表挨拶

④学校代表挨拶

⑤民泊家庭自己紹介

⑥教育委員会職員紹介

⑦民泊家庭とのお互いの自己紹介

⑧閉会

16:00～民泊家庭への移動

芸北小学校

学校 ～9:40 学校より太田川森林組合へ徒歩移動

9:40～9:45 児童到着後、空いたスペースに荷物を置く。

この際の荷物はリュックに（水筒・タオル・帽子・軍手・）を準備。

民泊用の荷物は学校へ保管しておく。

9:45～11:15 木工クラフト体験進行

①開会②児童代表挨拶③指導者より挨拶④体験(木工クラフト)⑤片付け⑥児童代表挨拶

⑦指導者より挨拶⑧閉会

11:15～11:25 移動（徒歩で学校へ戻り、荷物一式を持ちバス乗り場へ移動後、豊平支所へ）

12:00～13:00 昼食（豊平支所2階会議室にて）

13:00～13:20 対面式

①開会

②北広島町代表挨拶（役場支所長等）

③児童代表挨拶

④学校代表挨拶

⑤民泊家庭自己紹介

⑥教育委員会職員紹介

⑦民泊家庭とのお互いの自己紹介

⑧閉会

16:00～民泊家庭への移動

(2) 2日目「加計高校芸北分校との交流」（雨天の場合も変更なし）（芸北小学校をのぞく）

9:00～9:15 体験活動についての打合せ（芸北分校・町教委）

9:15～9:30 芸北運動公園体育館に集合、整列

児童到着後、各学校ごとに体育館後方に荷物を置く。

前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。

児童到着後随時、学校毎に健康観察を実施する。

※9時15分より前は体育館に入れないので、民泊家庭には9時15分以降に来て頂くようにする。

- 9 : 30~12 : 20 加計高校芸北分校との交流
 ①開会②児童代表挨拶③加計高校芸北分校代表挨拶④交流（スポーツ雪合戦）
 ⑤片付け⑥児童代表挨拶⑦加計高校芸北分校代表挨拶⑧閉会
 ※参加に際して児童に持たせたい目的意識：「同じチームの仲間と協力して取り組もう」
 「分からないことは積極的に人に聞こう」
- 12 : 20~13 : 00 第2体育館に移動後、活動班の仲間と昼食をとる
- 13 : 00~13 : 10 荷物を持って駐車場に移動
- 13 : 10~13 : 20 民泊家庭へ移動
 民泊家庭の迎え（芸北運動公園駐車場）を待ち、随時受け渡し実施
 ※前日にデジカメを渡していない民泊班にデジカメを1台渡し、活動の写真を撮ってもらう。

芸北小学校

- 各家庭~9 : 15 民泊家庭の自家用車で豊平総合運動公園体育館へ
- 9 : 15 ~9 : 30 児童到着後、体育館後方に荷物を置く。
 児童到着後随時、健康観察を実施。
 （朝民泊家庭で体温測定をしていない児童へは体温測定を実施）
- 9 : 30 ~11 : 30 スポーツ体験進行（体験時間約2時間）
 ①開会②児童代表挨拶③指導者より挨拶④ソフトテニス体験⑤片付け⑥児童代表挨拶
 ⑦指導者より挨拶⑧閉会
- 11 : 30~12 : 30 昼食（テニスコート横ベンチ席にて昼食をとる）
- 12 : 30~12 : 40 移動（荷物を持って駐車場へ移動）
- 12 : 40~ 民泊家庭への受け渡し（豊平総合運動公園）
 民泊家庭の迎えを待ち、来た順番に随時受け渡し実施

(4) 3日目「川魚つかみ取り(釣り)体験」

各民泊家庭ごとに、芸北文化ホールに集合。児童到着後、ホール後方に荷物を置く。
 前日にデジカメを渡しているグループからデジカメを回収する。

8 : 40~9 : 00 準備・整列（民泊家庭ごと）

9 : 00~9 : 40 お別れ式

- ① 北広島町代表挨拶（役場支所長等）
- ② 各民泊班から一言（民泊家庭で行った体験について、発表してもらう）
- ③ 学校代表あいさつ
- ④ 閉会

※お別れ式閉会后、写真撮影を行う。（全体集合写真→各学校毎→民泊家庭毎）

※民泊家庭との個別の挨拶は各自で行う。

※写真撮影の指示は町教委が行う。

9 : 40~9 : 50 バスに乗って大暮養魚場へ移動

9 : 50~10 : 00 到着、整列

※バスで大暮養魚場に到着後、活動班ごとに整列。

※児童の準備物はしおりを参照

10 : 00~13 : 00 川魚つかみ取り体験進行

【開会】

- ①開会②児童代表挨拶③指導者より挨拶

【大暮養魚場スタッフ進行】

- ④養殖の説明・施設見学⑤炭おこし⑥つかみ取り【1人2匹】

- ⑦アマゴ調理（割箸を使ってはらわたを出す）

※調理中に気分が悪くなる可能性があるため、事前に体験内容の説明をしてもらう

- ⑧炭火で焼く⑨昼食（アマゴ2匹、おにぎり、味噌汁）⑩片付け

【閉会】

- ⑪児童代表挨拶⑫指導者より挨拶⑬閉会

※活動班に分かれて活動する。

※魚を焼く囲炉裏は、各班で1つ使用。（最大12人程度座れる広さあり）

※雨天の場合は、屋根がついているところを利用

○体験時間に余裕があるので、児童主体で進めていくといい。（タイミングを見てスタッフがサポートする）

13 : 00~13 : 10 休憩・活動班ごとに整列

○持ち物の確認をすること。

13 : 10~ 各校へ出発 ~ 帰校

※バスで各学校に帰る。

芸北小学校

- 各家庭～8：45 豊平支所に集合 児童到着後、会議室後方に荷物を置く。
- 8：45～9：00 準備・整列（民泊家庭ごと）
- 9：00～9：20 お別れ式
- 9：30～9：50 バスに乗って大暮養魚場へ移動
- 9：50～10：00 到着、整列
- 10：00～13：00 川魚つかみ取り体験進行
- 13：00～13：10 休憩・整列（活動班ごと）
- 13：10～ 帰校

5 会場・準備物等

(1) 開会式・閉会式

【町教委】

- ・横看板『北広島ふるさと夢プロジェクト（小5）「民泊体験」～北広島のよさを満喫しよう～』

(2) 活動（せどやま体験、スポーツ雪合戦、川魚つかみ取り体験）

- 当日までの準備・対応

<各学校>

- ・デジタルカメラ（各学校最低1個は持参）
- ・救護用品<簡易バッグ>
- ・探検バッグ（せどやま体験、スポーツ雪合戦、川魚つかみ取り体験で児童がメモをする用）

<観光協会>

- ・スポーツドリンク配布（せどやま体験・スポーツ体験時配布）

○児童の持参物・服装

- ・ガムテープ等によく見えるように、学校名・名前を書き、胸前にはる。
- ・筆記用具・水筒・タオル・帽子・軍手・はきなれた靴・水に濡れてもいい靴
- ・カッパや傘（状況に応じて各学校ごと前日に指示）
- ・敷物
- ・服装－体操服上下

※せどやま体験時は長袖、スポーツ雪合戦・川魚つかみどり体験時は半袖

(3) 昼食

【観光協会】弁当

- 2日目（せどやま体験）の昼食

- 3日目（大暮養魚場）の昼食

(4) 費用について

全体 26,275円 個人 8,000円 町 18,275円

【重要】キャンセル時の費用負担について

キャンセル料について、民泊実施前日（11:00まで）までに教育委員会へ連絡があれば、キャンセル料はかからない。ただし、民泊実施前日11:00を過ぎた場合、キャンセル料がかかり、個人負担額は5,000円になる。（せどやま体験分を除いた金額）

【共有】引率者（教職員）の食費、宿泊費（希望者）について（注文された方のみ）

昼食代として、1・2日目弁当650円、ジュラート350円、3日目大暮養魚場昼食1,100円がそれぞれかかる。宿泊費は実費。（後日学校ごとにまとめて請求）

※宿泊費は各学校毎に出張処理とする。

6 役割分担及び安全管理・安全指導（計画策定委員会を中心に企画・準備）

- 保護者通知（八重小→各学校） ○体験活動のしおり（八重小→各学校）

- 安全についての指導（各校で事前学習を行う）

- ・交通安全・生活安全（動物・植物等について、熱中症等）・災害安全（大雨・雷・洪水）

- 割当に関して

- ◆学校間交流活動<各グループで割当>

- ◆対面式児童代表・学校代表挨拶<各グループで割当>

- ◆お別れ式児童代表・学校代表挨拶<各グループで割当>

- 報告書製作（教育委員会・八重小）

- ◆プロジェクトのねらい

- ◆活動の内容・様子－写真入り、A4で3枚程度にまとめる。

- ◆記録用写真撮影<各学校>

- ◆作文<各学校1人－400字原稿用紙で2枚程度>

学校ごとに指導して製作し、データを教育委員会へ送付

- ◆活動の様子、作文は、**1月10日**までに製作してデータを送付
- ◆夢プロ日より（民泊）は八重小担当・・・**12月**配布予定

7 提出書類・準備物等

提出する書類・事前学習や確認に活用する資料

【学校提出書類】

体験申込書・バス配車手配表・食事手配希望表・引率教員部屋割・民泊割当表・民泊家庭あて書類送付用リスト・体験の班分け・緊急時関係者連絡網・体験活動のしおり（児童用・指導者用各1部提出）・民泊家庭プラカード

【学校で製作・活用】提出書類チェック表・持ち物チェック表

児童・保護者の準備物 ※出発時の服装については、各学校で協議する。

〔服装〕：長袖体操服（上下）、体操服かTシャツ（半袖・上）、赤白帽、はき慣れた運動靴〔持ち物〕 ※その他、必要なものがあれば、各校で加える。

服装・着替え（基本）	日用品	その他
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用、半袖1セット）	洗面用具（歯ブラシ・歯磨き粉）	カバン（多くの荷物が収納出来る大きめのもの）
帽子（赤白帽）	ハンカチ・ティッシュ（3日分）	ナップサックまたはリュックサック（水筒が入るサイズ）
靴下（4日分）	タオル（5～6枚）	虫除けスプレー・ジェル
運動靴（履き慣れたもの、水にも濡れていい靴：2足）	ビニール袋必要枚数（着替え入れ・ごみ袋として）	【※体に合うものを十分に用意】
上着類（1日分：3日目に使用）長袖・長ズボン（くるぶしまで隠れるもの）		虫さされ薬【※体に合うものを十分に用意】
下着類（2日分）シャツ・パンツ	【田舎暮らし体験・川魚つかみ取り体験用】軍手（滑り止めの木綿製）3セット	熊よけ鈴
【川魚つかみ取り体験用】 半袖体操服かTシャツ・半ズボン	カップ・傘	水筒（ペットボトル不可） 【田舎暮らし体験で使用】 エプロン・三角巾
【川魚つかみ取り体験用】 濡れてもよい運動靴かシューズ（サンダルは不可）		体験活動のしおり 筆記用具
【民泊先での農業体験等で使用】長靴		常備薬（必要に応じて）
寝間着（ジャージ・パジャマ）		
体操服（長袖2セット：1セットは当日着用）		

※全ての持ち物に名前を書く。（袋にも名前を書いておくこと）

8 ご協力をお願い

【事後指導】

○民泊家庭に対し、事後学習の際に、手紙や色紙等でお礼を言える機会の検討

【アンケート（児童・保護者）】

- ◆実施後に、ねらいの達成度や児童の思いを把握したりするためのアンケートを実施
- ・ふるさと夢プロジェクト事業児童及び保護者アンケート（Google フォーム）※事前に学校共有

9 その他

- プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。
- 保護者案内は、提出日を目安に学校ごとに製作して配布する。
- 特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、教育委員会とも連携を取りながら引率職員体制について配慮する。学校側で必要があると判断した場合、児童提出書類提出時に早めに共有を行う。

令和5年度からの主な変更

□児童数調整のための学校の組み合わせ変更

□プログラム変更

・1日目 朝から活動開始、せどやま ・2日目 加計高校芸北分校との交流、民泊体験

□開会や閉会等の式における担当校調整

活動時の学校代表挨拶の廃止（対面式・お別れ式は実施）、進行は町教委実施

□1日目から弁当→給食停止

体験活動における食物アレルギー事故発生について

令和6年6月26日、北広島町教育委員会が主催する北広島ふるさと夢プロジェクト「町内民泊」において、牛乳・卵に重篤なアレルギーがある児童へ当該食材が入った弁当を提供したことから、アレルギー症状を起こし入院する事故が発生しました。

当該児童は、当日1日入院した後、体調が回復し、翌日に退院しました。

この度の事故を受け、児童生徒の体験活動を含む全ての学校活動について、安全点検を行うとともに、ガイドラインの作成・徹底により、二度とこのような事故を起こすことの無いよう、教育委員会、学校一丸となり取り組んで参ります。

1. 発生日時 令和6年6月26日（水曜日）12時すぎ（昼食時）

2. 発生場所 北広島町芸北地域

3. 対象児童 5年生児童 1人

4. 内容

民泊体験中に手配した昼食の弁当を食したことにより、アレルギー症状を発症した。養護教諭による応急処置を行ったが、次第に症状が重くなり救急車を要請。病院に搬送された。

5. 原因及び対応

児童の食に関するアレルギー情報について、学校から提出された書類を事前に弁当製造者に伝えていたが、原因食物アレルギー成分が入った食材を誤って使用した。

6. 再発防止策

民泊体験に参加する児童においてアレルギー疾患がある場合、弁当の手配に関しては、弁当製造者に対して成分表の提示を必須とし、学校を通じて保護者に確認をして頂くようにする。

感染防止・安全対策ガイドライン（民泊用）

【児童・先生】

- ①発熱・咳・寒気・悪寒・筋肉痛・頭痛・のどの痛み・味覚または嗅覚の異常等の感染症状を旅行実施前と旅行実施当日および民泊前日に確認してください。
- ②家庭到着後に症状が現れた場合、その時点で民泊家庭から離れて医療機関にて診断を受けてください。
- ③児童には①の条件を徹底し、併せて確認してください。
- ④滞在中の民泊家庭から（手洗い・うがい・社会的距離・マスク着用・その他）感染防止に対する指示があったときは、指示に従う事を事前に指導してください。
- ⑤児童・児童と受け入れ家庭の双方の命に関わることであり、虚偽の申告が絶対無いよう事前指導を徹底してください。
- ⑥事後確認として体験活動終了後3日以内に当該児童が新型コロナウイルス感染症陽性になった場合は、北広島町教育委員会に連絡してください。

【(参考) 受け入れ家庭 感染防止対策内容】

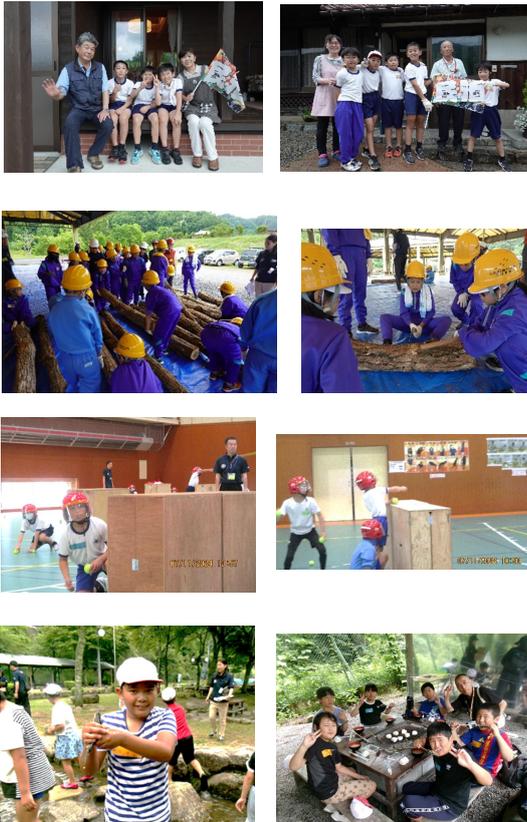
- ①手洗い用のプッシュ式洗剤、除菌用アルコール消毒液の用意
- ②フェイスタオルの人数分用意（滞在中個人管理とする）
- ③体温計を常備する。
- ④家族の健康状態を随時確認する。

【感染予防で気をつけること】

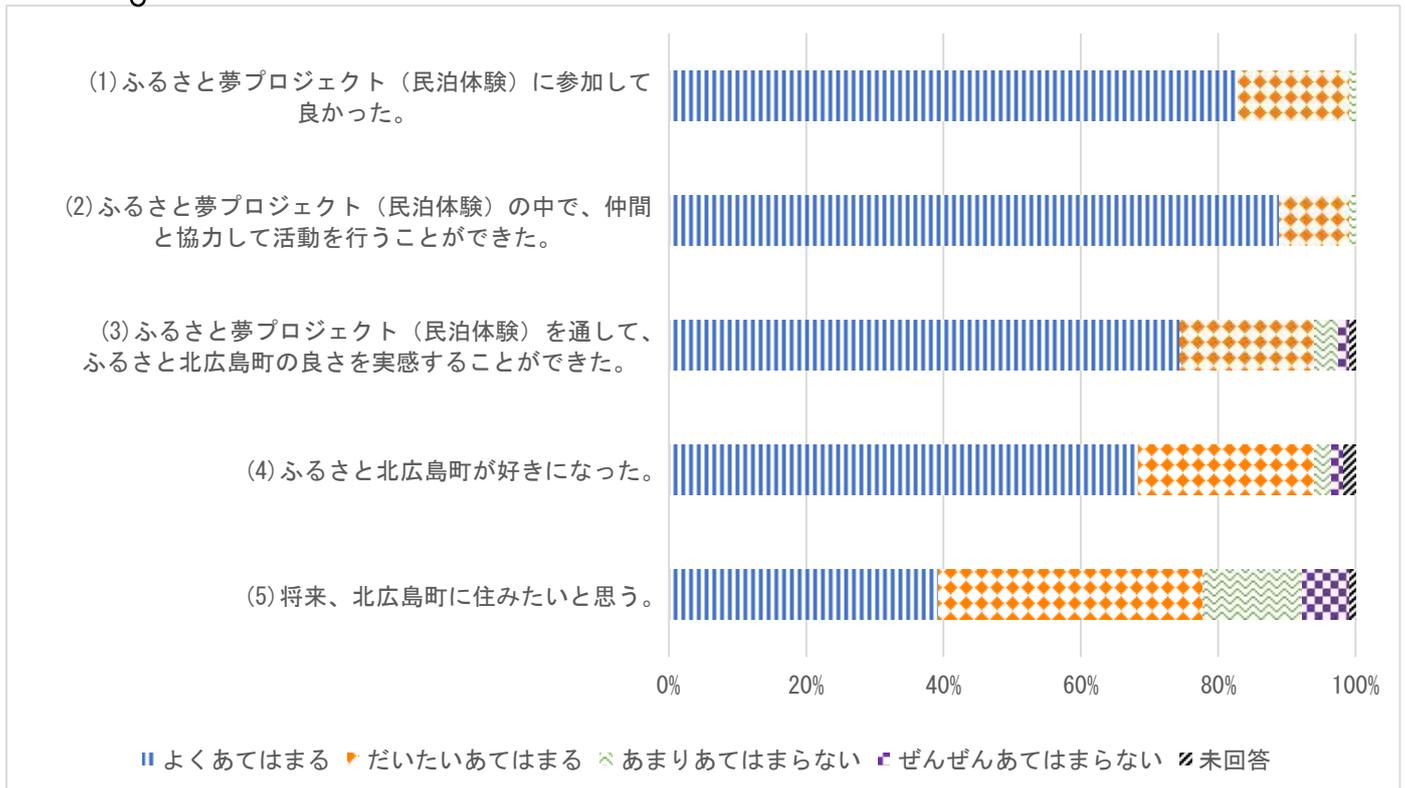
- ①洗面や手洗いの場所を定めておく。
- ②寝具については、使用前後に天日干しや布団乾燥機を利用し清潔にしておく。
- ③客間も使用前後に掃除機後に雑巾や畳拭き用ウエットシートにて拭き取ること。
- ④部屋の換気を必要に応じ適宜行うこと。（特に回数は求めない）
- ⑤食事の際、鍋料理・大皿盛り等のメニューにする場合は、自分の箸で大皿から取らず箸等の取り分け用のものを使用すること。テーブル上のパーテーションは各家庭が必要とした場合は使用する。

「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」の活動の様子

活動内容	活動の様子
<p>【Aグループ】（芸北小）6月5日～6月7日</p> <p>「木エクラフト体験」 太田川森林組合で木エクラフト体験をしました。みんな真剣な表情で、金づちをうまく使いながら椅子を組み立てていました。</p> <p>「対面式」 対面式は、少し緊張した様子で始まりましたが、お別れ式の時には、寂しさが込み上げていました。</p> <p>「スポーツ体験」 ソフトテニス体験をしました。どんぐり北広島ソフトテニスクラブの方々に教えていただき、楽しく体を動かすことができました。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場で川魚つかみ取り体験をしました。みんなで声を掛け合いながら魚を追い込んでいました。採った後は、自分たちで串を刺し、炭火で焼いておいしくいただきました。</p>	      
<p>【Bグループ】（壬生小・豊平学園）6月19日～6月21日</p> <p>「民泊体験」 民泊家庭では、山菜や野菜を収穫したり、夕食を作ったり多くの貴重な体験をさせていただきました。温かく迎えてくださり、安心して過ごすことができました。</p> <p>「せどやま体験」 せどやま市場の見学をし、ボイラー室で木をくべたり、丸太から薪を作ったりする体験をさせていただきました。みんなで協力した後の「芸北ドルチェ」はとてもおいしかったです！</p> <p>「加計高校芸北分校との交流」 芸北分校生徒と、スポーツ雪合戦を楽しみました。高校生みなさんが、自分たちで会の準備、運営を行う姿にも刺激を受けていました。未来の自分の姿を想像できたのではないのでしょうか。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」 魚のつかみ取り体験をしました。自分の手でつかまえた魚を調理することで、「命をいただく」意味について考えることができました。</p>	      

活動内容	活動の様子
<p>【Cグループ】（新庄小・八重東小・本地小） 6月26日～6月28日</p> <p>「せどやま体験」 せどやま市場を見学後、丸太からのまきづくりに挑戦しました。みんなで協力して丸太を切ったり、機械を使ってまきのサイズに割ったりして、かごいっぱいのもきができました。その報酬として「芸北ドルチェ」をいただきました。</p> <p>「加計高校芸北分校との交流」 加計高校のみなさんとスポーツ雪合戦を行いました。チームごとに作戦を立て、ボールを投げたり、フラッグを取ったりし、ゲームを楽しみました。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では、班で協力しながら川魚つかみ取り体験をしました。自分たちで川魚を処理したり、自分で考えながら火起こしを行ったりと、初めてやることにワクワクしながら楽しんで活動しました。</p>	
<p>【Dグループ】（八重小）7月10日～7月12日</p> <p>「民泊体験」 民泊家庭では、野菜の収穫や夕食作り、木工細工体験などを通して北広島町のよさ、家庭の温かさを感じました。お別れの時にお手紙を書いて渡すグループもありました。</p> <p>「せどやま体験」 「せどやま市場」での林業体験です。子どもたちは、重い丸太を運んだり、丸太を薪にしたりしました。大変な作業でしたが、どの子も一生懸命がんばりました。</p> <p>「加計高校芸北分校との交流」 スポーツ雪合戦では、チームで作戦を考えるなど、協力して試合をすることができました。</p> <p>「川魚つかみ取り体験」 大暮養魚場では自分で捕まえた川魚を自分の手で調理することを通して命の大切さについて学びました。これからの食事ではもっと命に感謝しようと思えたようです。</p>	

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（5年）



民泊体験・田舎暮らし体験をして、思ったこと考えたことを書いてください（抜粋）

芸北小学校

○芸北には、イノシシがいっぱいいるのに、なぜたべないのだろうか。理由は、イノシシ肉が美味しかったからです。

○ヤギやにわとりと触れ合えて楽しかった。なぜなら、初めてのことがいっぱいだったから。

○班の人と協力することが多かったから、人と協力する力がついたと思います。例えば、川魚つかみ取り体験で炭起こしをするときに炭を入れたり、うちわで仰ぐときに「ここに入れたらいいんじゃない？」などアドバイスしたりして、協力しました。

○対面式に出会ったときは、少し緊張していたけど、2日目からは緊張もあまりしていなくて民泊家庭二人ともコミュニケーションも取ることもできて来て、毎日が楽しくなってきました。民泊体験をして、北広島町のみ力をもっと見つけることができました。

○北広島町で民泊体験をすることが出来てすごいと思いました。なぜかという、めったにない民泊体験をしたからです。

○2つあります。1つめは、かまどでひをたくことが少しむずかったけど、楽しかったです。2つめは、家では出来ない体験をすることが出来たからです。この民泊体験で生活で必要なこと、畳の上では、緑の線をふんではいけないという和風の家でのルールを知りました。だから、これからの生活にいかしたいです。そして民泊体験は楽しかったからまた行きたいし体験できて良かったです。

○色々な道具とかがあって、すごいなと思いました。理由は、見たことがない道具が色々あったからです。（かまや、よろいなど）

○釜でご飯を炊いたことが楽しかったです。

大朝小学校

○私たちが田舎に住んでいると思っていたけどもっと田舎でびっくりしました。

○静かなところだと思った。

○村竹さんの家はにぎやかでおもしろかった。

○田舎暮らし体験は田舎の良さは分ったし、北広島町の広さがわかった。

○村竹さんの家で花火をしたのが楽しかった。

新庄小学校	
○田舎暮らしをして、思ったことは、山の中でも、しっかり友達と協力できた。	○田舎の良さを実感できた。 ○村竹さんがとても親切だった。
八重小学校	
○みんなと協力して、行動することが、民泊の前よりできるようになった。 ○畑仕事が大変だということがわかりました。 ○同じ地域にいる人達と暮らせて楽しかった。 ○仲間と協力することの楽しさ。 ○いろんなことを体験してめっちゃ楽しかったです。また行きたいです。 ○あともう1日だけあったらなーと思いました。 ○仲間と協力することの楽しさ。 ○みんなと一緒に色々話したり普段出来ないことが出来て良かったです。 ○みんなと協力して出来たので楽しかったです。 ○あずきを植えたときにコツが必要なんだと思いました。 ○もともと北広島町は田舎だ。 ○自然豊かだなと思います。 ○木を使っていろいろなものが作れるんだと思いました。 ○田舎暮らし体験をして、田舎暮らしは、毎日が大変なんだなと思いました。	○北広島町の自然とふれあい、自然は素敵だと思いました。 ○民泊家庭の人と天ぷらを作って食べたり、雲月山に登ったり、ピザを作ったり犬の散歩に行ったりトランプをしたりして、民泊家庭の人とも仲良くなれた。民泊班の人とも協力して活動できた。 ○掃除は大切なんだなあと思いました。 ○ご飯も美味しかったし、体験も楽しかったしもうめっちゃ楽しかったです。 ○大変だったけどみんなと楽しく協力できました。 ○民泊先でのお風呂が一番楽しかったです。 ○畑しごとがたのしい。 ○自然がたくさんあって気持ちよかった。 ○民泊体験、田舎暮らし体験をして思ったことは料理を作ったり一緒に遊んだり農作業を手伝ったりして自分の親の大変さが分かったし、都会などでは、農作業を機械でやる人もいるけど、体験活動で手で農作業をして、大変さが分かりました。民泊家庭の人たちも大変なのにやっていることが分かりました。 ○知らなかった一面が知れて良かったです。
八重東小学校	
○芸北は千代田よりも自然が多いなと思った。 ○みんなと協力することはやっぱり大切だということ、寝るときがはじめてだったので少し怖かった。 ○たくさん初めての体験をして、とてもこれからの生活にいかしたいなと思った。 ○したことがない体験ができて良かったです。友だちも増えました。 ○楽しかったことは、みんなで料理を作ったことです。思い出に残ったことは、みんなジェンガをしたことです。 ○料理や自分のことをやることは大変だなと思った。 ○畑仕事が大変だと思った。 ○農業の手伝いが楽しかったです。	○協力が大事で、大変だったけどとても楽しかったです。 ○みんなで民泊を行けて嬉しいです。 ○民泊のお父さんお母さんの話を目と心で聞き取ることができて嬉しかったです。トランプもできて嬉しかったです。 ○やったことがないことがたくさん出来て楽しかった。 ○いつもと違うことができて楽しかった。 ○民泊で僕はみんなで芋掘りをしたりご飯を作ったりとても楽しかったしこれからもやってみたいなと思いました。 ○芸北地域はお米がさかんなこと。 ○野菜がいっぱいできていた。

壬生小学校	
<p>○みんなで協力して倉田さんのお手伝いをすることが出来た。</p> <p>○田舎では自然がいっぱいあり、とても忙しいのが分かりました。</p> <p>○みんなでご飯を作るのが楽しかった。</p> <p>○自分の家では体験できないことをやったのですごく嬉しかったし、楽しかったです。</p> <p>○勝手に美化運動して、町に役立つことをしたいと思った。</p> <p>○民泊家庭で夜ご飯を作ったときご飯を作るのは大変なんだなと思いました。</p> <p>○普段は出来ないことをさせてもらったり、班のみんなと協力できたことが良かったと思った。</p>	<p>○みんなと（三人）で協力して、家事が出来たのでまたやりたいなと思いました。</p> <p>○民泊のおかげで、苦手だった食べ物とかをこくふくできました。</p> <p>○ゆきのした、どくだみ、あしたばなどの山菜の名前や食べれることなどがわかりました。</p> <p>○民泊をしてこんなに野菜作りは、大変だと思いました。</p> <p>○民泊体験で、やったことのない体験ばかりだったけど民泊班の人と協力してできました。</p> <p>○料理をしたり、畑に行ったりして将来にも役立つことができて良かったです。</p> <p>○料理が出来るようになりました。</p>
本地小学校	
<p>○受入家庭の人達が優しくて嬉しかった。</p> <p>○楽しい思い出になりました。</p> <p>○今回北広島町(主に芸北)を満喫できた。特に思い出となる出来事は、みんなで食卓を囲んだり、他の学校の人たちと協力してレクや体験をしたことが一番思い出に残った。</p> <p>○自然についてもっと考えようと思った。</p> <p>○畑で玉ねぎをいっぱい取って楽しかったです</p>	<p>○自然のよさをもっと知ることができた。</p> <p>○田舎暮らし体験は本地も田舎だから実感できなかった。</p> <p>○民泊家庭の人たちと花火やブランコ、ホテルを見たり、バームクーヘンを作ったり、染物をしたりいろいろな思い出でつくれたから良かった。</p> <p>○みんなと協力して丸太をノコギリで切ったことがとても良い思い出になりました。</p>
豊平学園前期	
<p>○みんな楽しそうだった。</p> <p>○犬の散歩やちらし寿司をつくった。</p> <p>○一人で野菜を抜いて料理を作るのが、大変だと感じた</p> <p>○仲間（友だち）と、協力できた。</p> <p>○野菜抜きは普段しないから楽しめた。カレーを作るのが初めてだったから皮を剥くのも楽しいし美味しかった。</p> <p>○玉ねぎでハンカチが黄色になるのか考えました。</p> <p>○友達の意外なところをしれた。</p> <p>○自分たちで作ったカレーはおいしいと思った。</p> <p>○田舎に住んでいる方たちは、ストーブ用の薪を積んだりしていることがわかりました。</p> <p>○自然を感じながら、家に泊まらせてもらったのが楽しかった。いちごの収穫や、あずきの植えも楽しかった。</p>	<p>○一人でたくさん料理を作っているのがすごいとおもった。</p> <p>○タマネギを抜くとき、玉ねぎがたくさんあって毎年抜くのは大変そうだった。</p> <p>○流しそうめん、グミを流したのが楽しかった。</p> <p>○北広島町はとてもいい町ということに気づけた。芸北にも自然がたくさんあるということがわかりました。</p> <p>○玉ねぎを抜いたり玉ねぎの皮でそめ物を作れて嬉しかったし、たのしかったです。</p> <p>○あずきをたくさん植えた。民泊に行っていないときは、二人で植えているのがすごいと思いました。</p> <p>○民泊をする前には分からないこともあったけど民泊で分からないことも丁寧に、優しく教えてくれてとても分かりやすかったです。</p>

体験活動（川魚つかみ取り体験・せどやま体験・そばうち体験・スポーツ体験等）をして、
心に残っていることはどんなことですか（抜粋）

芸北小学校

○川魚掴み取り体験です。なぜかというとなかなか取れなかったけどみんなで協力して取れたからです。

○つかみ取りのときに、みんなで協力して取ったことが心に残りました。理由は、協力していなかったら取れていなかったし、美味しいアマゴが食べれていなかったからです。

○いい木を作るには色々な手間がかかるということ。

○魚は1年で育つんじゃなく、何十年もかかることが分かった。なぜ心に残ったかというと、初めて知ったしこんなにも苦労するんだなと思ったから。

○私は特にスポーツ体験が心に残りました。なぜなら、ソフトテニスとは初めてで、うまくなっていくほど、楽しくなっていくからだし、試合の時に私が点を入れたときにとても嬉しかったから心に残りました。

○ぜんぶ楽しかったです。どうしてかというとは家では出来ない体験が出来たからです。

○木工クラフトは、楽しく上手に作れて、スポーツ体験は、うまく打てたことで、川魚つかみ取り体験は、つかんで取ることが心に残りました。

○川魚つかみ取り体験は、魚が、色々な所に隠れるので探しにくかったです。見つけて、捕まえてもぬるぬるしているから捕まえにくいし、捕まえても、ぬるぬるしていたので、大変でした。木工クラフト体験は、この部分がどこの部分かわからなかったけど完成図があったので簡単にできました。釘を刺すのも穴を開けられていたのでわかりやすくできました。スポーツ体験は、力を抜いているのに柵越のホームランが出てしまいました。ホームランを打ちたいと思っていないのに出ました。なので不思議でした。でも、楽しかったです。またしたいです。

大朝小学校

○スポーツ雪合戦で総当たり優勝したのが心に残っています。

○魚のつかみ取りでは魚が早くてびっくりしました
いろいろなことを体験をしたから、生活に活かしたいとおもいました。

○川魚つかみどりで、いのちがあるんだな・いのちをいただいているんだなあと心に残った。

○川魚のつかみ取りで、魚を見つけて捕まえることや、内蔵を取ることが楽しかった。

○魚のつかみ取り体験で全てがおもしろかったです。

新庄小学校

○友達や、同じ班の人と協力したこと、みんなと笑顔になったこと。

○協力できたこと。

○みんなで協力してできた。

八重小学校

○せどやま体験の後にみんなで、ジェラートを食べたことです。

○全部、協力して出来たことです。

○炭起こしがとても楽しかった。

○スポーツ雪合戦で決勝戦で行ったこと。

○川魚つかみ体験とスポーツ雪合戦です。特にスポーツ雪合戦で優勝できたのが、一番の思い出でした。

○炭起こしが楽しかった

○みんなで木を切ったりする時に交換しながら楽しく協力出来たこと。

○スポーツ雪合戦で自分のチームが優勝したことが一番心に残っている。せどやま体験で木を切ることがうまく出来たので楽しかったです。

○特にスポーツ雪合戦で優勝出来たことです。試合の時にあと1分くらいしかないギリギリのときに私が走って相手の旗を勢いよく取ったことです。めっちゃ嬉しかったです。

○川魚つかみ取り体験で同じ班の人が「無理」と言ってきたのでお手伝いをしてあげたことが自分でも良かったことだと思います。スポーツ雪合戦では、優勝するこ

<p>○スポーツ雪合戦では、負けた方が多かったけど一番心に残りました。</p> <p>○魚を捕まえるのが難しかったです。スポーツ雪合戦ではよけたり投げたりするのが難しかったです。</p> <p>○魚取り体験で魚が取れなかったこと。</p> <p>○せどやま体験で木を切ったときの瞬間。</p> <p>○魚つかみ取り体験とせどやま体験で、班で協力出来たことです。</p> <p>○川魚つかみ取り体験は取った魚の内臓を取り除くのが大変だった。せどやま体験では、友達と協力できた。スポーツ雪合戦は、大朝小学校の人とがんばった。</p> <p>○スポーツ体験で班のみんなと協力して優勝しました。</p>	<p>とが出来ました。旗を取るときはすごく嬉しかったです。</p> <p>○内蔵をぐりぐりするのがとても楽しかったです。</p> <p>○3つの体験に関わっている人たちが優しく接してくれたことが心に残りました。</p> <p>○一番心に残ったことは、魚取り体験です。</p> <p>せどやま体験では、木をノコギリで切ったりするのがとても大変でした。まきも機械で割ってそれをかごに入れて、操縦もして、忙しかったです。木を切る大変さがよくわかりました。心に残ったところは、木を割ったところ。スポーツ雪合戦では、ヘルメットを被って前に行って投げる人、ボールを渡す人に分かれてやりました。心に残っているのは、高校生と仲良くなったことと、一回だけ勝ったときです。</p> <p>○せどやま体験で食べたジェラートが美味しかった。</p>
---	--

八重東小学校

<p>○仲間と協力して出来るようになった。</p> <p>○スポーツ雪合戦で高校生といっぱい話せたこと。</p> <p>○せどやま体験で木を切ることは大変なのだなと思った。</p> <p>○どんなときでも班のみんなと協力出来た。</p> <p>○川魚つかみ取り体験が、1番心に残りました。</p> <p>○川魚つかみ取り体験でアマゴ調理です。</p> <p>○川魚つかみ取り体験の魚をさばくとき。</p> <p>○川魚つかみ取り体験で命の大切さを知りました。</p> <p>○魚の内臓を取ることが心に残った。</p> <p>○せどやま体験で協力したこと。</p> <p>○スポーツ雪合戦のときに高校生と交流するのが楽しかったです。</p>	<p>○教えてくれる人が優しくて、とても分かりやすいように教えてくれた。</p> <p>○アマゴとヤマメの違いが分かるようになりました。魚を手づかみで取ることができました。アマゴの感触がぬるぬるでした。アマゴの動きが早くて追いつきづらかったけど、取れました。焼いて美味しくて、取ったかいがあったなと思いました。</p> <p>○川魚つかみ取り体験やせどやま体験などでふるさとを満喫したこと。</p> <p>○他校の友だちが出来たこと。</p> <p>○スポーツ雪合戦をして「おっきー」という人と仲良くなれたこと。</p> <p>○スポーツ雪合戦で1回戦で負けたことです。</p>
---	---

壬生小学校

<p>○スポーツ体験ではみんなで作戦を考えてフラッグを守ったり取りに行ったりすることができた。</p> <p>○体験活動を行って協力する力を少しできるようになりました。</p> <p>○スポーツ雪合戦は、優勝はできなかったけど、相手チームの棒が取れたので嬉しかったことが心に残っています。</p> <p>○スポーツ雪合戦でみんなと協力できました。</p> <p>○環境の悪化をなくしたい。自分でできることを取組んで環境の悪化をなくす。</p> <p>○川魚つかみ取り体験で魚をつかみ取りするときと、焼く準備をしたことが心に残りました。</p>	<p>○せどやま体験で、いつも私たちのために大変だけどもってくださってるんだなと思いました。</p> <p>○川魚つかみどり体験で、火をおこすのが難しかったです。</p> <p>○川魚のつかみ取り体験で、尻尾に塩を多めにかけると尻尾が焦げにくい事が心に残りました。</p> <p>○木を切ることをせどやまさんに教えてもらってほんまにうまく木が切れました。</p> <p>○川魚つかみ取り体験で命についての話が心に残りました。</p> <p>○将来に使えるかは、分からないけど良い経験になりました。</p>
---	--

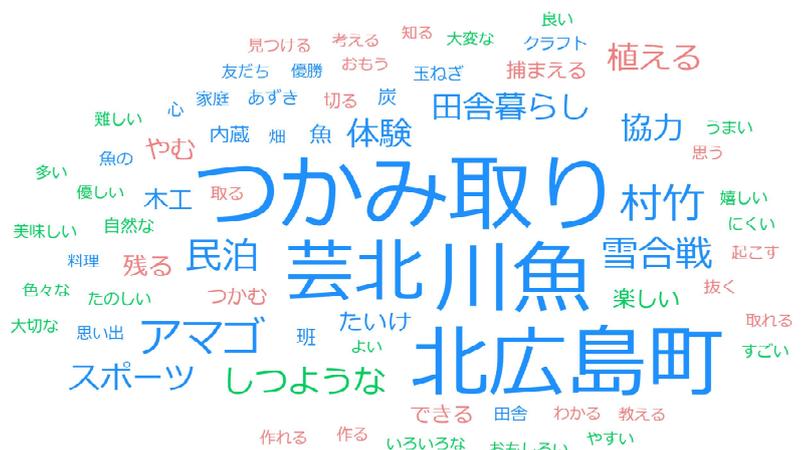
<p>○初めてのことばかりだったけど、みんなと協力できたこと、他の学校の人とも仲良くなれたこと。</p>	<p>○自然を感じたことです。</p>
<p>本地小学校</p>	
<p>○魚が美味かったです。 ○せどやま体験で、木を切るのが大変でした。 ○色々みんなと楽しく過ごし、スポーツ雪合戦が一番心に残りました。そして仲間と協力し、力を合わせて体験に取り組むことが大切だなと思いました。 ○花染めものです。 ○せどやま体験では木を切ったことが心に残った。</p>	<p>○高校生と一緒にスポーツ雪合戦をできたから良かったです。 ○川魚つかみ取り体験で魚のことを知ってもっと魚のことを知ろうと思いました。 ○せどやま体験 ○スポーツ雪合戦で棒を取って勝ったから嬉しかったです。</p>
<p>豊平学園前期</p>	
<p>○むずかしかったけど楽しかった。 ○川魚つかみ取りが楽しかった。 ○芸北高校の人が「真ん中に行くといいよ」と教えてくれたので優勝できて嬉しかったです。 ○つかみ取りで魚がすばしっこかったけど、つかめた。 ○木を切る事。 ○スポーツ雪合戦です。 ○魚がぬるっとしていて捕まえにくかった。 ○川魚つかみ取り体験で魚がつかみにくかったこと。 ○スポーツ雪合戦をして僕は、仲間と協力することが大切だということが分かりました。せどやま体験をして割った薪でせどやま券をもらって芸北ドルチェでアイスを食べたことが心に残りました。</p>	<p>○思いの外大変だった。 ○芸北分校の人と壬生小の人たちと協力し合ってスポーツ雪合戦をしたこと。 ○川魚つかみ取り体験で、火をつけることができたこと。 ○せどやま体験が、みんなと協力できたのが心に残った。 ○いろいろなひとと関わられたし、苦手なことなどができるようになった。玉ねぎを抜いた。 ○スポーツ雪合戦で高校生の人たちと出来て楽しかったです。 ○アマゴをつかみ取りしたこと。 ○スポーツ雪合戦で作戦を考え協力したことが心に残った。 ○初めての体験で凄く楽しかったです。</p>

児童のアンケートから

右の図は、民泊後に実施したアンケートで、児童が記載した感想をテキストマイニングしたワードクラウドと呼ばれる図となる。繰り返し出てきた単語が大きく表示される。

「川魚」「つかみ取り」「体験」など、体験についての感想がキーワードとして多く挙げられていた。

初めての環境で田舎暮らし体験を行い、その中でふるさと北広島町の良さを改めて感じる機会になった。



大切なことを学んだ民泊体験

芸北小学校 石橋 美幸

私はこの民泊で心に残った出来事が二つあります。

一つ目は、二日目の夕食作りの時、流しそうめんを使う竹を組み立てたり、火を起こしてかまどでご飯をたいたりしたことです。夕食作りを一人でやろうとしても、竹を組み立てるときにはすぐにくずれるし、火をおこそうとしても時間がとてまかかりました。そこで、班の友達同士でお互いを手伝ったり、アドバイスをしたりしました。そうすると、竹をうまく組み立てられたり、火を大きくしたりすることができました。このことから、全て一人でするのではなくて、友達と協力して行動することの大切さが分かりました。

二つ目は、養魚場でアマゴのつかみ取り体験をしたことです。炭おこしは、うちわであおぐ人と、炭を入れる人、アドバイスをする人で分かれてやりました。うちわであおぐことは、時々交代してやりました。そうすると、上手に炭をおこすことができました。つかみ取りは、「そこにアマゴがいるよ。」など声をかけ合いました。そうすると、一人でつかまえようとする時よりも早くつかまえることができました。このことから、分たんし協力すると、初めてやることも上手にできたり、早くできたりすると思いました。

この二つの出来事から協力することの大切さを学びました。

二学期にはせどやま教室や運動会など様々な行事があるので、みんなで協力するときには、民泊での経験を生かしてアドバイスをしたり分たんしたりしていきたいです。

楽しかった民泊体験

大朝小学校 小田常葉

わたしがせどやま体験で分かったことは、みんなで人数を分けて木を切ったらすごく効率がよくなるということです。

木を切るときに、

「こうやったら早く切れるんじゃないの。」

と言って切りやすい方法を探したり、

「こういう音がしたら切れてるよ。」

などアドバイスを伝え合ったりして最速で切れるルートを探することができました。一本切るのに二十分くらいかかって大変でしたが、たくさん木を切ることができました。二、三本木を切り終わったあと、その木をもっと細かく切ってかごに入れる作業をしました。体験が終わってかごを見たとき、ものすごい量の木があって本当におどろきました。みんなで協力するとそれほどたくさん木が切れるのだと学びました。みんなでいろいろなことを協力したらすぐに終わって楽しくなることがわかりました。

そのほかにも、民泊体験では、加計高校芸北分校の高校生による神楽を見ました。高校生は、「やまたのおろち」をまっけて、体をくねらせてまっけているのがかっこよく、きれいですごいなと思いました。私も神楽をやっているから、まう時や楽の時などは高校生の人たちがしていたのを思い出して神楽をしたいと思いました。

民泊では、八重小学校の人ともいっしょに活動をしました。初めて会う人ばかりで不安

でしたが自分から話しかけることで仲良くなることができよかったです。

民泊体験を通して、協力をしたり声をかけ合ったりするなど、自分から働きかけることで活動がしやすくなることに気づいたので、これからの生活に生かしていきたいです。

民泊

新庄小学校 佐伯 楓花

私たち新庄小学校五年生は、六月二十六日から三日間、芸北地域に民泊に行きました。

最初、集合場所を間違えて、芸北文化ホールへ行ってしまいました。誰もいなかったので、みんなであせりました。結局、芸北オークガーデン集合ということが分かり、急いで行きました。まだ一校来ていなかったもので、間に合いました。みんなでお安心しました。

最初に、せどやま体験をしました。丸太をのこぎりで切りました。切る作業をする中で同じ班の違う学校の人と仲良くなれて、うれしかったです。ペアで二・三本ずつ丸太を切りました。その後、機械でまきを作りました。パカッとすごい音がして、木がどんどんまきになっていきました。そこでかせいだお金で、アイスを食べに行きました。みんなでおしゃべりをしながら食べたアイスクリームは最高においしかったです。

その後、民泊家庭の方と対面式を行いました。私たち三人は、細見の村竹さんのお宅にお世話になることになりました。村竹さんのおうちに着くと、畑仕事を手伝いました。刈ってあった草を集めたり、きゅうりを育てるためのネットを張ったりしました。夜は花火をさせてもらい、楽しい思い出になりました。

二日目は、芸北分校の高校生にスポーツ雪合戦を教えてもらいました。相手の動きがわかりにくくて大変でした。

昼過ぎには、村竹さん家にもどって、畑仕事を手伝いました。広い野山を、私たち三人は子猫のように駆け回りました。夜はみんなで作ったカレーをおいしくいただきました。

最終日は、アマゴのつかみ取り体験をしました。竹ぐしをアマゴの口からさすのが大変でした。でも、生き物を食べることの大切さを学びました。

三日間、つかれたけれど、たくさん思い出ができました。また、行ってみたいです。

人のやさしさ 感じた民泊

八重小学校 川崎 夕愛

私の民泊の目標は、「マナーやルールを守り、安全な民泊にしよう。」でした。私はこの目標は達成できたと思っています。

一日目は、民泊先で料理のお手伝いをしたことがとても楽しかったです。お皿に料理のもりつけをしました。家でもよく手伝いをしているので、スイスイとできました。一人一人が自分たちの食べた食器を洗ったり片付けたりしました。

二日目は、スポーツ雪合戦を高校生と一緒にしました。わたしたちのチームは、決勝戦まで行き、優勝できたので嬉しかったです。スペシャル大会で高校生と対戦して負けてしまいました。悔しかったけど、スペシャル高校生は運動能力も、声のかけ方もすごいなと感じました。私もすごいと言われる人間になりたいと思いました。

三日目は、民泊先の谷本さんと一緒に家にいることが最後だからとても悲しかったです。

だからこそ、お二人にお礼のお手紙を書きたいと思い、お手紙を書いて渡しました。そうすると、泣きそうな声で、

「ありがとう。」

と言ってくださりとても嬉しかったです。その様子を見て私も泣きそうになりました。谷本家のみなさんはとても優しく、楽しい方々だと私は思いました。民泊をさせていただき、民泊を受け入れられる方の変さがわかりました。言葉では言い表すことができないほどの経験をさせていただき、ありがたいと思えました。

そして、今回の民泊で私が一番心に残っていることは、せどやま体験です。理由は、木を切ることは図工の時にした事があるけど、あんなにも大きな木を切ったことがなかったからです。その木を班のみんなと一緒に協力しながら交代で切ることができました。片付ける時に、大朝小学校の友達とも一緒に協力できました。終わった後はとても達成感がありました。

今回の民泊を通して、五年生のみんなとの絆も深まったと思います。これからも、みんなで協力していろいろな活動をしていきたいです。

民泊物語

八重東小学校 横田航大

民泊では、せどやま体験、スポーツ雪合戦、そして民泊家庭でいろいろな体験をすることができました。民泊家庭の人たちとっしょに雲月山という山に登りました。そこでは、町の花の「ササユリ」という花を見ることができました。「ササユリ」は昔はたくさん咲いていたけれど、動物や人間が根っこがおいしいから食べて数が減り、今ではめずらしい花になったそうです。そして、ピザを一から手作りをしました。いつものご飯より、自分たちで作ったからか、とてもおいしく感じました。民泊家庭の方や、そこで飼われていた犬ともふれあえ、とても楽しい生活が送れました。

せどやま体験で学んだことは「エコロジー」「エコノミー」「エネルギー」の3つのeについてです。僕はこの中でも特に「エネルギー」についてなるほどと思えました。地域の中でエネルギーを作り出し、電気やガソリンにたよりすぎないことが大切だということがわかりました。

まき割り体験はとてもつかれる作業でした。大きなかごの中にたくさんのまきを入れ、かごからはみ出した時の達成感はとてもうれしかったです。そのかごいっぱいに入れたまきを芸北だけの特別なお金に変えてもらい、そのお金でアイスを買って食べました。とてもおいしかったです。

今回の民泊を通して、自然や芸北のよさを知ることができました。僕は、北広島町のことはよく知っていたつもりだけど、まだまだ知らない北広島町のよさがあるということがわかりました。また民泊に行きたいです。

たくさん成長

壬生小学校 竹網 麻

民泊体験を通して、意識して行動したことはみんなと協力することです。

1日目の始めは他の学校の人たちと色んなことをするのは緊張したけれど、活動をしていくにつれて、豊平学園の人たちと話したり、協力して活動に取り組んだりできるようになりました。民泊家庭では、民泊班のみんなと協力することができました。料理もみんなで作って、作った料理はいつもよりおいしく感じてたくさん食べることができました。

2日目は、高校生の人たちとスポーツ雪合戦をしました。ここでも協力することができました。1日目とは違う活動班で、作戦を考えて協力して試合をする中で仲良くなれたと思います。民泊家庭では、民泊のおうちの人と班のみんなと協力して、一時間くらい草取りをしました。道具を使ってたくさん草を取り、取った草を二人で協力して運びました。重たかったけど、力を合わせると速く運べました。取った草は燃やして、育てている野菜の肥料にするそうです。夕ご飯も分担を決めて協力して作りました。ふだんはできないことができたと思います。

3日目は、民泊家庭の人たちとのお別れ会がありました。約3日間家族と離れて過ごすのは、緊張したけれどあっという間の3日間でした。お別れ会の後、大暮養魚場に行きました。まず、サーモンやアマゴなどを養殖するところを見ました。そこで命についてのお話を聞きました。その後、火おこし体験をしました。苦戦しましたが、教えてもらったり班のみんなと協力したりして火をおこすことができました。取った魚を、おこした火で焼きました。自分たちでとった魚はおいしかったです。

この3日間で、できなかったことができるようになったり、なにより色々な人と協力することができたことが良かったなと思います。初めてのことばかりで、最初は緊張したけれど、やってみればできたことがたくさんあるので、これから今回の体験を思い出して、みんなと協力してチャレンジしていきたいと思います。私はこの民泊体験を通して、たくさん成長できたと思います。

民泊体験を通して

本地小学校 國本 心咲

わたしは民泊で楽しかったことや学んだことがたくさんありました。

1日目のせどやま体験で、木をどのように切るか学びました。木を足でおさえてしっかりのごぎりをもって切ると切りやすかったです。このことを活かして次に木を切る時があったらうまくできそうです。

午後からは、原さんの家に行きました。すごくきん張したけど、たまねぎ取りをしたらきん張がほぐれました。家と比べて取る量がちがっておどろきました。

2日目は加計高校の人たちと雪合戦をしました。私は雪合戦が初めてでした。グループみんなで自分のじん地を守る時、声をかけ合いながらがんばりました。最後の試合まで勝ち進んだけど、負けたのがくやしかったです。

3日目は民泊最後の日で、あまごのつかみどりをしました。あまごのつかみどりでは、2匹取れました。池のすみに追いやるとかん単に取れました。とても楽しかったので夏休みにも家族で魚のつかみどりをしました。民泊の経験を活かして3匹も取れました。民泊の時も、夏休みの時も、あまごは塩焼きにしました。自分でとった魚は、やはりおいしかったです。

この3日間を通して、私は、人とうまく話ができる方法を学びました。自分から積極的

に話をすると、話がはずみました。話がはずむと、会話が続きたくさん話ができるので、私はうれしくなりました。これからも話が楽しめるように、自分から相手に話しかけて、仲良くなれるようにしていきたいです。

民泊での経験

豊平学園前期 佐々木 闘己

民泊体験活動一日目は、最初、きん張している中、壬生小との交流をしました。焼きそばゲームは、「焼きそば！」「ヤー！」「お好み焼き！」「オー！」「イカ焼き！」「なんでやねん！」と言うゲームで楽しみました。

民泊先の家についてからは、玉ねぎやにんにく、赤玉ねぎなどをほりました。玉ねぎといっしょに雑草もあったので、とるのがむずかしかったです。ねる時は、他の人の家なのでなかなかねむれなくて、夜はずっと友達と遊んでいました。

二日目はスポーツ雪合戦で、民泊体験活動の中で一番楽しかったです。スポーツ雪合戦の作戦は、「壬生小の子がフラッグを取りに行き、自分が後ろで、フラッグを守る敵に球を当てる」です。その作戦は何回か成功しました。しかし、プロ選手の試合を想像すると、フラッグを最初から取りに行くと絶対全員当てられるだろうと想像できました。とてもいい経験になりました。

三日目は大暮養魚場に行きました。大暮養魚場では、魚の取り方や火起こしの仕方を学びました。火起こしは、火の付け方をグループで考え計画していましたが、その計画ではうまく付きませんでした。そこで先生方に少し火の付け方のヒントをもらい、火起こしができました。火がついた瞬間、うれしくて大きな声を出してしまいました。みんなでがんばって作った火は暖かかったです。最後は自分たちでとった魚とおにぎりを食べました。おいしかったです。

壬生小の人たちとの別れは、「悲しい」というよりは「また会おう！」みたいな別れ方でした。民泊体験、おもしろかったです！

6年生

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」



北広島ふるさと夢プロジェクト事業〔6年〕実施計画

～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日時 令和6年9月25日(水) 9:30～13:50
- 2 場所 KumahiraPark 北広島(千代田運動公園(総合体育館 多目的広場))
〒731-1515 広島県山県郡北広島町壬生 10500 TEL 0826-72-8822

- 3 目的
- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
 - ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。
 - ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。
- ※上記の目的や日程・グループ等ついて、各校で事前指導を行っておく。
※今年度も有観客とする。

4 対象児童 小学校・義務教育学校6年生(7月24日現在)

	芸北小	大朝小	新庄小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平学園	計
男子	5	6	3	19	6	11	7	12	69
女子	7	3	3	12	9	13	3	6	56
児童数計	12	9	6	31	15	24	10	18	125

◇養護教諭は豊平学園前期1名が参加。(参考:R5 新庄小・本地小、R4 新庄小)
但し、応急対応グッズは各校で持参する。

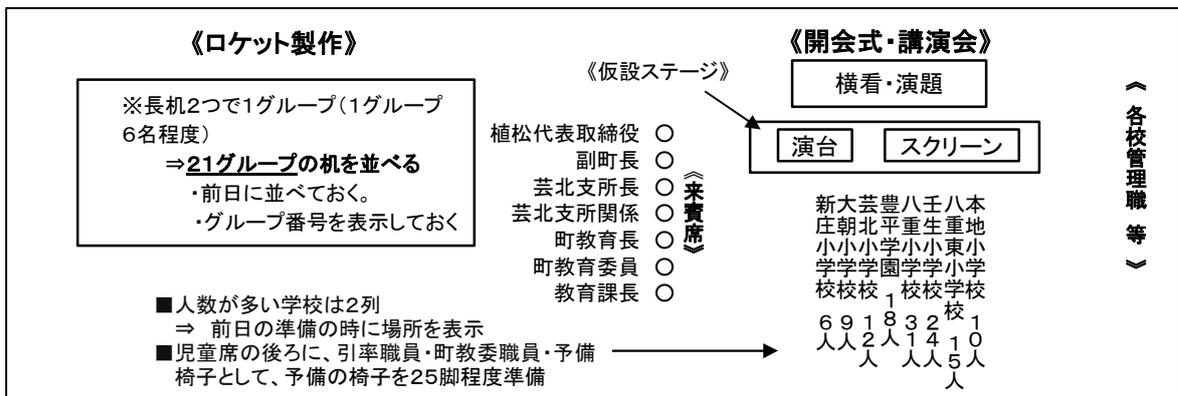
5 日程

- (1) 各学校より会場への集合 ※バスは発車時間の10分前には到着予定で調整済
町教育委員会がバス会社に予約済み、駐車場所等については各学校で各バス会社と確認。

- ①芸北小 [8:30 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜小型バスー総企バス＞(児童12名+引率者)
- ②大朝小 [8:35 発] →新庄小 [8:50 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜中型バスー大朝交通＞(児童15名+引率者)
- ③八重小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜大型バスー八重タクシー＞(児童31名+引率者)
- ④豊平学園 [8:35 発] →本地小 [9:00 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜大型バスー豊平交通＞(児童28名+引率者)
- ⑤壬生小 [9:00 発] KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜中型バスー八重タクシー＞(児童24名+引率者)
- ⑥八重東小 [9:00 発] →KumahiraPark 北広島[9:15 着]
＜小型バスー八重タクシー＞(児童15名+引率者)

(2) 全体会・活動の流れ

- 各学校よりバスでKumahiraParkに到着後、2階の観覧席に荷物を置いて1階のフロアに集合する。
※早く到着した学校は、できるだけ奥より詰めるようにする。
※講演会が見える側の観覧席は地域の方が座る為空けておくこと。(テープ等で区切っておく予定)
□持参した屋内シューズに履き替えて2階へ(くつはビニール袋等へ入れて持っておく)
□水筒(お茶)を持って1階に集合。講演会はメモなどを取らない。
◆開会行事(9:30～9:45)ー総合体育館(講演・ロケット作りも)
＜司会進行ー山本教諭(本地小)・町教委＞
児童の並び(開会式・講演会は椅子に座って)



【活動の流れ】

- (1) 開会行事 (9:30~9:45)
 - ①開会挨拶 (応援隊副隊長 (副町長)) ※町教委が連絡調整をする。
 - ②校長代表挨拶 (担当校長代表 [川上校長-八重東小]) ※講師紹介を含む
 - ③来賓紹介 (司会進行) ⇒西部教育事務所芸北支所長
(来賓紹介はないが、当日はサポートとして社会教育委員も来られる予定)
- (2) 講演会 (9:50~10:50) …株式会社植松電機の植松努代表取締役による講演会
 - ・メモなどは取らずに、開会式の並びで講演を聞く。
- (3) 休憩 (10:50~10:55) ※トイレ、水分補給等
- (4) ロケット製作 (10:55~12:00)
 - ・ロケット製作をする各学校のグループ机に移動し、指導を受けて製作 (グループ表示あり)。
 - ・引率職員は、自分の学校の児童を中心に関わり、必要に応じて製作の支援をする。
 - ・製作後、講師を囲んで記念写真-体育館の2階より撮影 (町教委)
 - ※昼食・休憩・移動-学校ごとにアリーナの2階で弁当を食べる。
 - ※ロケット製作中、講演会ステージは町教委で撤収する。
- (5) ロケット打ち上げ (12:50~13:45) -多目的広場-
 - ・マイクまたは拡声器は町教委で準備。
 - ・帰りのことを考え、荷物を持って指示される場所に集合する。
 - ・職員は、安全に発射できるよう児童の指導や役割分担の仕事を行う。
 - ・児童は4グループに分かれ、各グループで2列に分かれて打ち上げる。
<1~6グループ (35人)、7~11グループ (30人)、12~16グループ (30人)、
17~21グループ (30人)>
- (6) 閉会行事 (14:00~14:10) -多目的広場- ※学校ごとに集合し並ぶ
 - ①閉会挨拶・謝辞 (担当校長代表 [高槻校長-壬生小])
 - ②児童代表挨拶 [八重東小学校] ※過去の実績参照<参考:過去の児童代表校>

R5 本地小、R4 大朝小、R3 芸北小、R2 壬生小、R1 八重小、H30 新庄小、H29 新庄小、H28 豊平小、H27 八重東小

※株式会社植松電機 植松努代表取締役に最後に挨拶をしていただく (町教育委員会が事前に確認)
※閉会式後、各学校グループごとバスに乗り、14:00に千代田運動公園を出発する。
◎雨天・強風等の天候不良のために、ロケットの発射ができなかった場合は、昼食を食べて13:15に千代田運動公園を出発し学校へ帰る。後日、学校でロケットを発射する。
(小雨程度であれば実施するようにする)

6 会場・準備物等

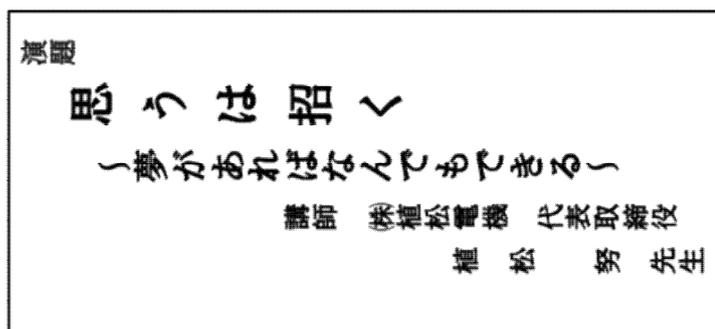
(1) 開会式・講演会

【町教育委員会】

○横看板



○演題



○演台 (パソコンを手元で操作しながら話すためのパソコンの置ける演台)

○プロジェクター ○スクリーン ○パソコンと接続出来る音響用スピーカー など
パソコン (マック) は講師が持参。

【KumahiraPark 北広島】

○音響装置（マイク・スピーカー等） ○椅子-170 脚程度

(2) ロケット製作

【町教育委員会】

○長机-46 台

製作に使用する道具が 6 人 1 セットで用意されているため、6 人が向かい合わせで 1 つのグループ（2 台で 1 グループ）になるようにテーブルを配置する。

<21 グループ⇒42 台 準備用の机も必要なので、合計で 46 台程度必要>

○マジック〔油性〕

■黒 125 本-児童一人に一本 <町教委が購入>

【学校】

○グループ分けの確認

※事前に、児童にグループ番号を知らせておく。

○マジック〔油性〕を持参（色が 6 色等セットになっているもの）

■6 色等がセットになっているマジック〔油性〕

-グループごと最低で 3 セット、全体で最低 63 セットは必要。

(3) ロケットの打ち上げ

【町教育委員会】

○安全な発射、多目的広場の安全確保のためのサポート員（10 人程度）

○これまでに各校に配布されている発射台やスイッチ等は持ち寄らなくてもよい

(4) 予算・会計

【町教育委員会】

《株式会社植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別）

小学生以下・・・3,000 円／1 人 125 人分

○交通費、宿泊費は別途支払い。交通費については実費ではなく、株式会社植松電気規定の往復料金が必要。（後日まとめて請求あり）

《その他》

児童輸送バス代・会場利用料等

7 報告書作成について

○実施後に、ねらいが達成度や児童の思いを把握するために、アンケートを実施。児童アンケートは、集計の負担減、効率化の観点から「Google フォーム」で作成（町教育委員会）

【実施後の児童アンケートについて】

9 月 30 日(月)までに「Google フォーム」で回答する。（報告書や夢プロ便りの資料とするため）

○次の内容の「報告書」を作成する。

業務改善の観点から「夢プロ便り」（A3 一枚）を活用して報告書を作成する。

(1) 講演の感想（120 字程度）

①【新庄小・壬生小】

(2) ロケット製作の感想（120 字程度）

②【八重東小・本地小】

(3) ロケット発射時の画像

③【アップ：八重小、ルーズ：豊平学園】

(4) 打ち上げの感想（120 字程度）

④【芸北小・大朝小】

※10 月末に「夢プロ便り」の原稿が仕上がった時点で、町教委、「夢プロ便り」担当の江崎校長、6 年ロケット担当の川上校長とで調整する。※過去①②③④がローテしている。R7 は上から④①②③

8 役割分担など

担当学校を中心に分担。

○株式会社植松電機・講演講師との渉外（町教育委員会）

○講師の昼食（町教育委員会）

○バス会社と連携（町教育委員会）

※事前に、町教育委員会が各バス会社に依頼 駐車場所の確認は学校毎

○保護者通知文（町教委作成⇒各学校配付）

○会計（町教育委員会）

○全体会に関わって

◆全体会進行 <山本教諭（本地小）・町教委>

- ◆開会式挨拶 <川上校長〔八重東小〕>
- ◆閉会挨拶・謝辞<高槻校長〔壬生小〕>
- ◆児童代表挨拶（閉会）<横田みなみ（八重東小）> ◇記録写真<各自>

※9月13日までに児童挨拶者を決める。

○担当者 <町教委―松長 八重東小―川上校長>

○夢プロ便り <八重小―江崎校長>

9 留意事項

- プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させる。安全な実施ができるように事前に各学校で指導しておく。
- 服装は各校の通常の通学服とする。筆記用具・弁当・お茶・屋内シューズ・靴を入れるビニール袋・名札・天気によっては雨具<傘、カッパ・レインコート等>を持参する。
- 特別な支援を必要とする児童、健康に留意する必要がある児童については、事前に保護者と連携をしておくとともに、引率職員体制について各校で配慮する。
- 前日の9月24日（火）14時より、会場準備等を町教育委員会職員と一緒に行うので、各学校1名以上の職員の参加。町教育委員会は、午後から準備。
⇒依頼の文書は、町教育委員会より送付
- 授業時数カウント（案）…学校行事2h、総合的な学習2h、図画工作1h、学級活動1h

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

令和6年9月25日（水）、北広島町内の6年生児童125名を対象に“北広島ふるさと夢プロジェクト事業「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」”を開催しました。

北広島町・北広島町教育委員会と各小学校は、次のことを目指してこの事業に取り組んでいます。

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することの素晴らしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

今年で10年という節目を迎え、これまでも小学校6年生が学び、そして体験してきており、児童がとても楽しみにしている事業です。10年目となる今回も北海道から植松先生をお招きし、町内8小学校の6年生がKumahiraPark 北広島に集合しての講演会並びにロケット製作を実施しました。

植松努代表取締役講演会 演題「思うは招く～夢があれば、なんでもできる～」

植松先生は、小さい頃からの夢であるロケット製作を実現するために、ロケットとは関係のない小さな会社で夢と希望をもってロケットづくりを始められ、自らの夢を実現するために努力を続け、民間では偉業ともいえる宇宙へ飛ぶロケット開発を成し遂げられました。6年生の子供達は、植松先生のユーモアと感動のある話に引き込まれ、将来への夢や希望をもって努力することの大切さを学びました。これから中学校へ進学する6年生にとって、とても価値のあるお話でした。講演会で植松先生からいただいた言葉を紹介します。

- 人の出会いには意味がある。→ 人は出会うことで変わることができる。
- 不安の向こうに喜びがある。 ○人は足りないからこそ助け合える。
- 人を助けるために必要なのは「やさしさ」なのです。 ○「ちがうはすてき！」→ 奇跡を起こせるキーワード
- 失敗も「何でだろう」「だったらこうしよう」と思うと力になる。
- 「失敗をしないために」を突き詰めると、何もできない、成長もできない、考えられなくなる。
- 自分の夢をどんどん人に話そう。 ○「どうせ無理」は、自分の自信と可能性を奪う最悪の言葉。
- 伝記を読もう。つらいことの乗り越え方が書いてある。

講演を聞いた児童の感想

私は、植松さんの講演から「無理だ」と言ってあきらめることは、自分が自分にブレーキをかけてしまい、とてももったいないことだと思いました。だから「がんばれ」や「素敵だね」などのプラスの言葉かけを、自分にも周りの人にもできるよう意識していきたいです。

ぼくは、よく夢が変わるけど、一つに絞らなくてもいいと気づけました。そして、「絶対無理！」を口ぐせのように言うけれど、「別の考えをしてみたら？」と言われ、「絶対無理！」と言う前に別の考えをしてみたいと思いました。人の可能性をバカにしたり否定したりせずに「頑張れ！」と言えるようにしたいです。



他校の同級生と協力して、夢のロケット完成！

ロケット製作は、基本的に自分達の力で行います。説明書を見ながら、児童達は作製しました。今回は他校の児童と一緒にグループ編成だったので、最初は緊張した様子でしたが、時間が経つにつれて協力しあう様子がみられました。

ロケット製作・発射の様子



ロケット製作・発射の児童の感想

他の学校の友達と助け合ってロケットを作ることができました。もしも、作り方で分からないところを班のみんながそのままにしていたら、ロケットはうまく飛ばなかったかもしれません。これからも、困った時には、友達と協力して、どんなことも乗り越えていきたいです。

知っている人や友達もたくさんいたけれど、知らない人にも分からないところを「教えて。」と言うなど、自分から話しかけることができました。そして、ロケットがうまく飛ぶように作ることができました。私の一番の目標だった「他校の6年生に話しかけて仲良くなる」ということが達成できたと思います。

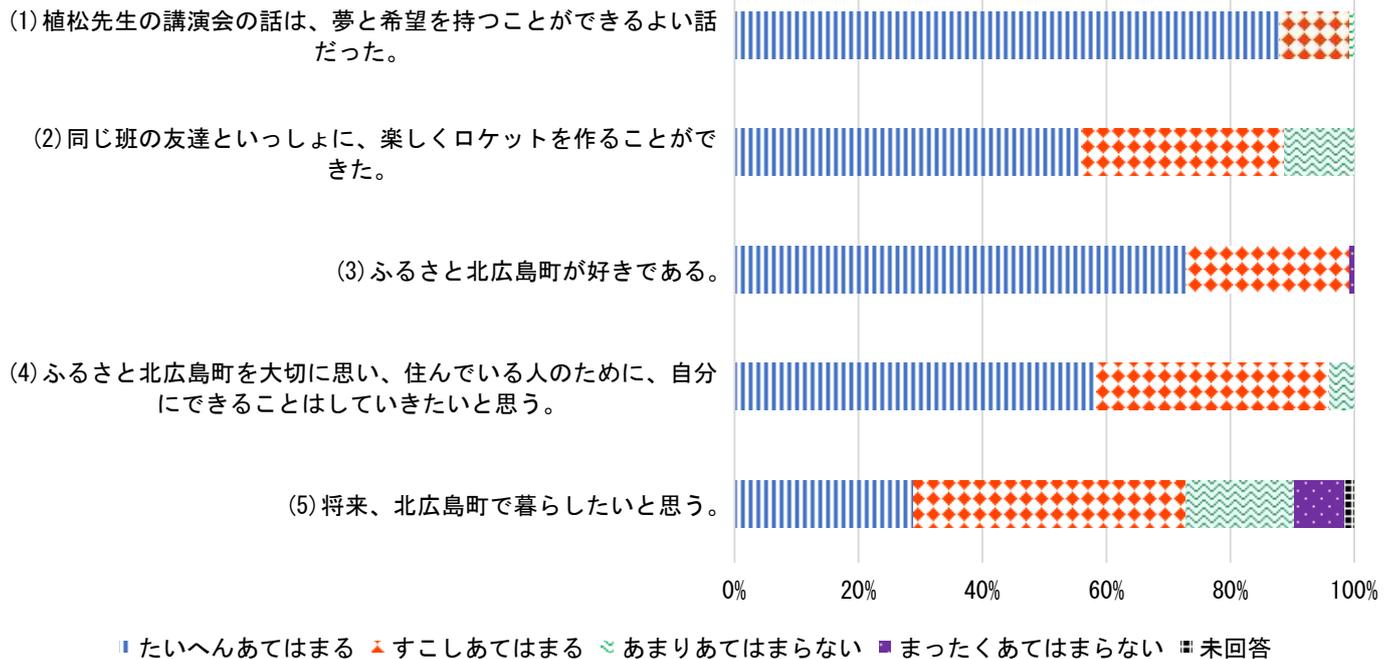
私の将来の夢は、和菓子職人になることです。「この夢が、未来の自分に届け！」という思いを乗せてロケットを飛ばしました。ロケットはうまく飛んだのでとてもうれしかったです。夢に近づけた感じがしました。これからは夢と希望が乗っているロケットを大切にしたいと思います。

ぼくは、ロケットを作っている時はそんなに飛ぶとは思っていなかったけれど、思ったよりも高く飛んでいたのでびっくりしました。パラシュートがどこに落ちるかわからず、あと少しのところではキャッチできませんでした。今度は、しっかり夢をもって飛ばし、キャッチしたいです。

児童のアンケート結果から（詳細は次ページ以降参照）

参加した児童のアンケートでは、「(1)講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった」「(3)ふるさと北広島町が好きである」が100%肯定的な評価だった。それ以外のアンケート項目も一定の否定的な回答があるものの、肯定的な回答が高い割合となっています。本事業を通して、ふるさと北広島町への愛着心が育ってきているといえる。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会のお話を聞いての感想や思いを自由に書いてください。（抜粋）

芸北小学校

○「違うは好き」が心に残りました。
 ○もっと夢を色々な人に話そうと思いました。
 ○植松さんの話を私はこれからの人生や将来の夢の参考などにしていきたいです。
 ○僕も夢へ向かって頑張ろうと思いました。
 ○自分の将来に役立つことがたくさんありました。
 ○今までの自分の考えがすごく広がる話だった。夢が出来た時には、周りの人にどんどん話して夢に向かって頑張ろうと思えた。
 ○自分の夢を諦めず頑張ろうと思いました。

○将来の夢のために自信がないと出来ないと思いました。
 ○私は、勉強が苦手だけど話を聞いてとても感動しました。
 ○私は自分らしく生きていいんだと感ずることが出来た。
 ○夢は、たくさん話すときっと分かってくれる人がいるということが分かったので、これからどんどん話していこうと思った。
 ○これからの生活に活かして行きたいと思います。

大朝小学校

○深い話だった。
 ○夢や思いについて深く考えれた。
 ○自分は今まで失敗したら諦めてしまうことがあったけど、植松さんの話を聞いて失敗することは悪いことじゃないんだなと思いました。
 ○植松さんの話で将来どんなことを言われても将来のことを諦めずにやることを知って「僕は頑張って将来のことを諦めずにしていきたいな」と思いました。

○すごくたくさんのお話を聞いて良かった。この話を頭に入れていろんなことを考えていきたいです。
 ○将来の事を諦めないですという話を聞き、私も将来諦めずにいこうと思います。
 ○あきらめず何度も何度もやり続けられること。
 ○失敗することが怖くて新しいことにチャレンジするのが嫌だったけど、講演会で植松さんが「失敗の先に成功がある」とおっしゃってて、何事にもチャレンジしようと思いました。

新庄小学校

- 心に残るとても良い話だと思った。
- 周りと比べなくても良いから自信が持てると思った。
- 未来のためになることだった。
- 無理とわずにやってみることが大切と知りました。

- 植松さんが夢のことやいろいろな大切なことを教えてくれたのが嬉しかった。他の学校の人とも話せたし民泊のときに友達になった子ともまた会えて嬉しかったです。
- 夢をあきらめないで頑張りたいです。

八重小学校

- 植松さんの話は自分の夢を応援してくれているような話だった。
- 植松さんはすごくいい人だと思った。これからの生活のヒントだと思った。
- 少し自分の夢が持てた気がする。
- 分かりやすかった。
- 人生が変わりそう。
- 周囲の人の言葉で夢を諦めたりせずに夢を叶えたいです。
- 勇気を持てた。
- 夢と希望を持って色々なことに挑戦したい。
- 生きることは大切なんだと思う。
- 今後の自分に思うは招くを言い聞かせたい。
- 植松先生の思いは招くという言葉です。出来ないことは挑戦するです。
- 自分を大切にしようと思いました。
- 植松さんの話の中で「思いは招く」という言葉が出てきて本当に「思いは招く」だと思いました。
- 諦めないことが大事なのが分かりました。私の将来の夢は、看護師さんなので諦めないで頑張ろうと思いました。
- 「夢があれば、何にでもなる」という言葉が心に残りました。
- 夢があれば何でもできるという言葉が一番心に残りました。その理由は、人は夢があれば何でもできるという思いが込められていると思ったからです。

- 植松さんの話の最初が面白かった・思いは招くという言葉が心に残った。
- 植松さんの話を聞いて心に残った言葉は「思いを招く」です。
- 「思いは招く」の意味がよくわかった。
- 「夢を人に話し続けるといつかわかってくれる人が現れる」がカッコいいと思いました。
- 私は、「失敗するともうだめだ。」と思ったことがありました。でも、植松先生の講演会を聞いて、「失敗は、だめじゃないこと」がわかったので生活でいかしたいです。
- 植松先生の「思うは招く」と「夢を諦めたらダメ」という言葉が心に残りました。
- 夢を叶えたいと思った。
- ロケットのエンジンは、爆発しないようにすることが大変だったのがわかりました。
- 夢や目標を他の人に笑われたら諦めるのではなく、我慢することが大切だとわかりました。
- 「思いは招く」という言葉を聞いて、だめだと思っても諦めずに頑張ろうと思いました。
- 動物占いで狼とか竜、ペガサスが良かったけどコアラだったこと。
- 次からは諦めるのではなくやり切ろうと思った。
- 植松さんは失敗しても諦めず頑張ったことが、すごいと思いました。
- 感動した。
- 話の仕方がうまいな一思いました。

八重東小学校

- 自分も家族に無理だなどと言われて自信がなかったけど話を聞いて自信を持つことができました。
- これからの夢や目標を達成できるように大事なことをたくさん聞いた。これから、いろんなことがあるけど、今日聞いた話を思い出して生活していきたい。

- 植松先生の話聞いて、ふるさと北広島町のことで、もっと好きになれた！植松先生の話は、全てためになる話だったので、将来に役立ちそうです。
- これから、辛いことがあったら植松先生の話思い出していきたいと思います。

<p>○すぐにもう無理とマイナス言葉を言うのは良くないことが分かった。失敗するかもと不安になるけど挑戦することが大切だと分かった。失敗は良いことにつながるということが分かった。</p> <p>○はじめから「もう無理だ」と言うのではなく、何にでも少しでもチャレンジしてみないとないと思いました！</p> <p>○植松さんは、自分が経験したからこそみんなにこうなってほしい、こうならないでほしいとってくださいってすごく心に響きまされた。</p> <p>○「失敗はダメじゃない」という言葉が心に残りました。</p> <p>○夢を持つことは、いいことだというのを改めて、感じる事ができました。</p> <p>○話を聞いてこれから、自分に自信を持つことを大切に生活していきたいです。</p>	<p>○自分のしゅみを仕事に出来るし人はどーせむりであきらめる人が多いから自分は、無理を言わないようにしようと思いました。</p> <p>○死にたくてもそれを乗り越えるときっといいことがある事がわかった。</p> <p>○植松さんが歩んできた道のりがわかって、僕もロケットを作ることが出来るようになりたいです。</p> <p>○今の自分をはげまし、できないことがあっても良いんだよというような自分に対する思いが芽生えました。</p> <p>○植松先生のお話を聞いて、「どーせむり」という言葉は、自身と可能性を全て消してしまう言葉と聞いて、今日から「どーせむり」をできる限り使わないようにして、自分の自信と可能性をもっと広げたいと思いました。</p>
--	--

壬生小学校

<p>○講演会で植松さんの「思いは招く」の言葉が私も大切だなと思いました</p> <p>○どうせ無理と言われても、諦めないようにしようと思った</p> <p>○すぐに諦めないことをしたいです</p> <p>○これからは大人たちから「無理だよ」と言われても諦めずにやろうと思いました。</p> <p>○周りの人に何を言われても、あきらめずにやる事が大切だと分かりました。</p> <p>○植松さんの話を聞いて、自分の夢を友達に話してみようと思いました。</p> <p>○植松さんの話はとても感動的で心に残りました。</p> <p>○「どーせ無理」という口癖はなくしたい。</p> <p>○失敗はいけないことではないことではなく大事なことだと知りました。だから、失敗を恐れずどんどんチャレンジしたいと思います。</p> <p>○植松さんはロケットを作るのに何回も失敗したけど、諦めずに頑張っていて、私も将来何回も失敗することがあると思うけど、何があっても諦めずに最後まで頑張ろうと思いました。</p> <p>○僕も夢を諦めずに達成するまでやりきりたいと思いました。</p> <p>○植松さんがすぐあきらめるのは良くないといって自分もすぐあきらめないとわかりました。</p>	<p>○自分の将来に見通しが持てて嬉しかった。</p> <p>○すぐに無理だと決めつけず、まずは、考えるということが心に残った。</p> <p>○出来ないと責めないであきらめないことが大事だと教えてくださって心に響きました。</p> <p>○すぐに無理だと言って諦めるのは良くないと思った。</p> <p>○植松さんのお話を聞いて私は、「無理だ...」とすぐに諦めてしまっても植松さんのお話を聞いてすぐに無理と諦めるのではなく、やり続けるということ学びました。あと仲間と協力することも大切だと学びました。</p> <p>○植松さんが不安は喜びと言っていたのが心に残りました。</p> <p>○植松さんは、ロケット発射のとき失敗をたくさんしてきたけど諦めないで頑張ってきたから、自分も諦めないで頑張っていきたいと思います。</p> <p>○植松先生のお話は、とても感動する意味が分かった。</p> <p>○夢をどーせ無理と言って諦めないようにしようと思いました。</p> <p>○自分もよくできないことがあるとすぐに諦めてしまうので、植松先生のお話を聞いて諦めずに継続することが大事だなと思いました。</p>
--	---

本地小学校

<p>○自分のことや、実際の写真も見れたからとても面白かったです。</p> <p>○講演会のお話をきいて夢を諦めてはいけないということが分かりました。</p> <p>○今まで夢を諦めかけたことがあったけど植松先生のお話を聞いてこれからはどんなに夢を諦めそうになっても夢を諦めずに生きていこうと思った。</p> <p>○最初はロケットをどうやって作ればいいのか？や植松さんってどんなことをしているのかなと思ったけど、講演会のお話を聞いてとても話がよく分かりました。</p> <p>○生きるの大切なことが分かりました。</p>	<p>○とても面白く話をされていたので楽しく聞けて楽しかったです。</p> <p>○自分は、夢は特に決まっていなかったから、講演会を聴いて夢へとつなぐ一歩になったと思います。</p> <p>○私は、講演会のお話を聞いてしっかりと夢を持つことが出来ました。私は、あまり持っていなかったから、はっきりする夢を持つことができました。</p> <p>○自分の夢が出来た。</p> <p>○これからは、出来ないことや否定されてしまったことでもすぐ諦めるのではなく、最後まで本気で取り組んでいこうと思います。</p>
---	--

豊平学園前期

<p>○将来の夢は色んな人に言ったほうが良いことが分かった。</p> <p>○将来ああいう大人になりたい。</p> <p>○夢が出来た。</p> <p>○夢などを諦めるともったいないことが分かった。</p> <p>○講師の植松先生がすごくロケットの作り方を分かりやすく教えてくれた</p> <p>○成績が悪くても夢があればかなう。</p> <p>○死ななければいつか会えるということが心に残った。</p> <p>○夢を諦めないということが大事だと思いました。</p> <p>○諦めない。</p> <p>○何かに挑戦するとき無理と思わないようにしようと思いました。</p>	<p>○自分達の未来についてとても良い話だった。</p> <p>○もっと将来のことを考えようと思った。</p> <p>○親に夢を否定されることが多かったけどそれを無視して目指す</p> <p>○こんなに諦めないのが大切なの分かりました。</p> <p>○諦めることはだめなんだなと思った。</p> <p>○自分の夢は諦めないで頑張ることが大事だと思いました。</p>
---	---

ロケット作りをしての思いや感想を自由に書いてください。(抜粋)

芸北小学校

<p>○ロケットを作っているときに、本当に飛ぶか少し心配だったけど打ち上げをして、うまく飛んで本当に良かったです。</p> <p>○自分の作ったロケットが勢いよく打ち上げれてすごく嬉しかったです。パラシュートもきれいに開いて良かったです。</p> <p>○自分の作ったロケットに思いを乗せて飛ばすことができました。</p> <p>○ちゃんと自分で作ったロケットを飛ばすことができたのが嬉しかったです。</p>	<p>○私が作ったロケットは、簡単に作れるようになっていたけど、宇宙まで飛んでいくロケットはもっと大変なんだと感じました。また、ロケットがうまく打ち上がったときには、やったーと嬉しかったです。</p> <p>○ロケットがよく飛んだので嬉しかったです。</p> <p>○夢が叶えばいいなと思って打ち上げました。</p> <p>○ちゃんと飛ぶか不安だったけど打ち上がった時確かにすごく嬉しかった。</p> <p>○自分が作ったロケットが飛ぶと嬉しかった。</p>
--	---

<p>○説明書を読んでも分からないことがあったときに同じ班の子に聞いて仲良くなりました。</p> <p>○始めは、飛ばないと思ったけど飛んで嬉しかったです。</p>	<p>○あまり友達と話せなかったのもっと話しておけばよかったと思います。また、打ち上げたロケットをキャッチ出来て嬉しかったです。</p>
<p>大朝小学校</p>	
<p>○達成感があった。</p> <p>○思ったより10倍高く飛んで、びっくりした。</p> <p>○ちゃんと打ち上げられて嬉しかった。</p> <p>○友達とも話せて、初めてロケットを作って成功したから嬉しかった。</p> <p>○ロケットづくりでグループになって作ってみると最初はドキドキしたけどうまく友達ができたしみんな（グループ）と協力できたから嬉しかったです。</p>	<p>○予想以上にロケットがよく飛んでびっくりした。また機会があれば作ってみたい。</p> <p>○楽しくお話をしながら出来たし、きちんと飛ばせたので良かった。</p> <p>○ロケットをうまく打ち上げられるか不安だったけどうまくうちあがってパラシュートが開いた。</p> <p>○自分の思いがロケットに乗っていった気がしてワクワクした。</p>
<p>新庄小学校</p>	
<p>○意外と音が大きくてびっくりしました。</p> <p>○とても楽しく出来た。</p> <p>○なんだって出来るんだと思った。</p> <p>○ロケットが打ち上がるか心配だったけど打ち上がって嬉しかった。</p>	<p>○思った以上に高く飛んですごかったです。自分が教えてもらわずに説明書と知らない人と1から作ったロケットが飛んで嬉しかったです。</p> <p>○みんなで協力したほうが早く出来ると思いました。</p>
<p>八重小学校</p>	
<p>○飛んで良かった。</p> <p>○威力がみんなより強くてゴムがちぎれたのが面白かった。</p> <p>○思ったよりロケットが高く飛んだ。</p> <p>○希望が見えた。</p> <p>○飛ばす前は、不安だったけどうまく飛んで嬉しかった。</p> <p>○自分で作ったロケットを打ち上げてすごく嬉しかった。</p> <p>○ロケット飛ばす時に高く飛ぶかなやパラシュートが開くかななど不安もあったけどちゃんと飛んでパラシュートも開いたのでめっちゃ喜んだ。</p> <p>○勝手にパラシュートが開くのがすごい。</p> <p>○成功するかしないか不安になったけど成功して嬉しかったです。</p> <p>○ロケットづくりはみんなと協力して作って打ち上げをしたら成功したので、みんなで協力して良かったなあと思いました。</p>	<p>○打ち上げた時に上手く飛んだから嬉しかったです。</p> <p>○こんな小さいロケットでも頑張って作ればこんなに速くて遠くまで飛ぶんだなと思いました。なのでこれからいろいろなことに頑張っていきたいと思いました。</p> <p>○ガンπρα作るみたいで面白かった。一番弱い燃料でもあんだけ飛ぶんだと思った。</p> <p>○以外に高く飛ぶのだなと思いました。</p> <p>○不安もあったけどよく飛んだ。</p> <p>○あんな小さいロケットがあんなに高く飛ぶんだ、、、すごい。</p> <p>○ロケット作りは、他校の学校の人とも協力できました。打ち上げは取れなかったけど、壊れていなかったのが良かったです。</p> <p>○小さいロケットであんなに飛ぶことがびっくりしました。</p> <p>○よく飛んで良かったです。</p>

<p>○ロケットの打ち上げが成功して良かったです。</p> <p>○打ち上げる前は、上手くいか不安だったけど打ち上げたら勢いよく打ち上がって嬉しかったです。</p> <p>○打ち上がった瞬間が気持ちよかったです。</p> <p>○植松さんの言うとおりで、自分の作ったロケットを飛ばすとすごく嬉しかったです。</p> <p>○やってみればすごいことが出来ることがわかった。</p>	<p>○他の学校の人たちと話せたのでとても良かったです。</p> <p>○ロケットづくりの中で難しかったところは、パラシュートをたたむところ。</p> <p>○ロケットが、すごく速いと思いました。</p>
---	--

八重東小学校

<p>○「小さなロケットをみんなで作ることができるんだな。」と、実感しました。</p> <p>○最初は、ちゃんと飛ぶか心配だったけど、ちゃんと飛んで嬉しかった。他の事にも、ロケットづくり・打ち上げのことを活かしていきたい。</p> <p>○成功するか不安だったけど空に上がりパラシュートも開き成功したので安心しました。作るのに苦労する先には喜びがあることが改めてしれました。</p> <p>○最初は、飛ぶかどうか心配だったけど、実際に、きれいに飛んでくれたので、嬉しかったです。また、何でもチャレンジするってことは、「大切なことだな」と改めて思いました。</p> <p>○最初ちゃんと飛ぶか心配だったけどいざ飛ばしてみるとちゃんと飛んで、植松さんやロケットをつくる人は毎回ロケットを飛ばすときはこんな気持ちなんだなと実感出来ました。</p> <p>○自分が作ったロケットが飛んだのでとても嬉しかったです。班の人と協力して作ることが出来ました。</p> <p>○最初は、きちんとパラシュートが開くのか心配だったけど、植松先生や応援の方々を確認してくださったおかげで空高く飛びました。ロケットのように何回失敗してももう一度立ち直れば成功できることがわかりました。</p>	<p>○班の人と協力して、自分のオリジナルロケットを作ることが出来て楽しかった。今日、班との協力することで、改めて周りの人との協力が大切なんだと分かりました。</p> <p>○1番小さいエンジンでも200キロ出るのがすごいと思いました。</p> <p>○今回のロケット作りではこれでも一番威力が弱いものだと聞いて一番威力の強いものが気になりました。</p> <p>○最初は飛ぶかなと不安だったけど飛んで良かったです。</p> <p>○初めて会った人が多かったので少し緊張しましたが自分から声をかけることの大切さに気付きました。また打ち上げのときは失敗してしまったけれどそれ以上にやってみたことに価値を感じました。</p> <p>○自分は、説明書を読んで、ものを作るということは苦手だったけど、友達などに協力してもらうことで、自分の出来なかったことが可能になったりしたので、ロケット作りからたくさんのが学べました。</p> <p>○高く飛ぶか、パラシュートがちゃんと開くか、色々不安だったけど無事、打ち上げに成功できたので良かったです。</p>
---	---

壬生小学校

<p>○「最初は打ち上がらなかつたらどうしよう」や「打ち上がって！」という不安な思いでいっぱいでしたが、しっかり打ち上がってくれて感動しました。</p> <p>○ロケットがものすごい勢いで飛んでいくのを見て、とてもびっくりしました。</p> <p>○成功になるか不安だったけど、成功して嬉しかった。</p> <p>○飛ぶか心配だったけど無事飛んでくれて楽しかった。</p> <p>○自分で作ったロケットが、上手く飛んだので嬉しかった。</p> <p>○「あんなに飛ぶんだ」と思いました。</p>	<p>○ロケットがうまく飛ぶか不安だったけどうまく飛んだから良かったです。</p> <p>○私が思っていた以上に飛んでいたのが嬉しかった。</p> <p>○飛ばしたときの感動が、パラシュートを開くポツという音とともにこみ上げてきました。本当にいい体験をさせていただきました。植松先生と教育委員会の皆様へ感謝します。</p>
---	---

<p>○ロケットが結構高く飛んで嬉しかったです。</p> <p>○失敗したけど、時間をかけて作ったから楽しかった。</p> <p>○最初は心配だったけど、成功したときはとても嬉しかったです。</p> <p>○ロケットを作るのはとても難しかったけど、しっかり打ち上げができたので良かったです。</p> <p>○知っている人がいたから聞きやすかった。</p> <p>○ロケット作りも打ち上げが少し不安でした。</p> <p>○中学でも友達が出来そうで良かった。</p> <p>○うまくは飛ばなかったけど自分ではロケットが飛んだから感動しました。</p> <p>○自分で作ったのが時速200キロで飛んだと思ったら、自分はすごいものを作ったなと思いました。</p>	<p>○貴重な体験をするので、少し緊張したけどすごく楽しかった。</p> <p>○初めてロケットを作るとなると、いざやってみると少し難しく他の学校の人と仲良く喋れて良かったと思いました。打ち上げてみると、すごいスピードで飛んでいたのが嬉しかったし、すごいと思いました。</p> <p>○ロケットを作って最初はこれで飛ぶのか分からなかったけど、ロケットを打ち上げてみて高く飛んで、音は「プシュー」って、小さいのに打ち上がってすごいと思いました。</p> <p>○説明書もわかりやすく楽しかったです。</p> <p>○ロケット作りで、いろいろな学校の人達と協力してロケット作りができて嬉しかったです。</p>
--	--

本地小学校

<p>○班で協力できたり、困っても助けがあって安心してできたし、打ち上げのときは説明があって安心してできました。とても最高でした。</p> <p>○打ち上げをして自分が作ったものが空高く飛んでいったので、とても嬉しい気持ちになりました。</p> <p>○最初はちゃんと飛ぶか心配だったけど空高くとんで嬉しかった。</p> <p>○ロケットづくりをしているときはちゃんと打ち上がるかなと少し心配でしたが、打ち上げのときは無事高く上がり、パラシュートも開いたからとても嬉しかったです。</p> <p>○自分でロケットを作れてとっても嬉しかったです。</p>	<p>○交流が出来たから良かったです。</p> <p>○もう一度したいなと思いました。</p> <p>○私は、最初自分が作ったロケットが飛ばなかったら嫌だなと思っていたけれど、ロケットを飛ばしたらとんだからすごく嬉しかったです。</p> <p>○ロケットを作る時にとりのひとと話ができたからよかったです。</p> <p>○同じ18班のグループの人達と、話し合ったり教え合ったりして無事ロケットを作ることができました。これからも一緒に作った人たちや出会った人たちに話しかけられるようになりたいなと思いました。</p>
--	---

豊平学園前期

<p>○失敗したらどうしようと不安だったけど成功して嬉しかったです。</p> <p>○ちゃんとパラシュートが開いてホッとした。</p> <p>○自分が作ったロケットがちゃんと飛んでくれたから嬉しかった。</p> <p>○ロケット作るときに班のみんなと話しながら作れて楽しかった！打ち上げも不安だったけど無事に飛んで安心して楽しむことが出来た。</p> <p>○植松先生がいていたり自分で作って打ち上げたロケットはすごく感動した。</p> <p>○失敗するかと不安だったけどちゃんと打ち上がって嬉しかった。</p>	<p>○うまく飛んで良かった。</p> <p>○高く空に飛んですごく嬉しかったです。</p> <p>○自分たちが作ったロケットがちゃんと空高く飛んでくれたので嬉しかったです。</p> <p>○小さいロケットでもこわれずに飛ぶんだなと思った。</p> <p>○楽しかったです。</p> <p>○すごい飛んで嬉しかったです。</p> <p>○想像以上に飛んで嬉しかった。</p> <p>○班の人と協力して作ったロケットが飛んで嬉しかったです。</p> <p>○無事にロケットが発射できて良かったです。</p>
--	--

「北広島ふるさと夢プロジェクト」小学校事業を振り返って

北広島町教育委員会
北広島町内小学校

「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の10年目を終えた。

感染症の影響はいまだ残るものの、活動内容もほぼ感染症流行前のように、対面・学校間交流も含めて実施することが出来た。

4年生の「お宝発見ツアー」事業は、各学校でツアーの目的を考え、北広島町を体験出来る内容で事業を行うことが出来た。5年生の『民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～』事業は、体験活動で学校間交流を行うなど、他校の児童との交流を充実させて実施をすることが出来た。6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」事業は、講演会、ロケット製作、打ち上げを1日通して集合で実施することが出来た。

参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「児童に町の魅力を再認識させることができ“ふるさと”への愛着心を育てたり、将来『北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい』という思いや考えを育てたりすることに効果的であった、と言える結果が出ている。ふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができた事業であるといえる。本事業も10年となり、時代の変化に合わせ見直しを適宜行いながら、今後も継続して事業を実施していきたい。

プロジェクト全体を通しての振り返り

- 夢プロも長く続いてきて、職員によってはマンネリの感があるかもしれませんが、何より町として「続ける」ことから意味が生まれてくると思います。教育委員会の皆様をはじめ、携わる各課の皆様感謝申し上げます。
- 北広島町教育委員会の皆様のご尽力のおかげで、とても充実したふるさと教育ができ、心より感謝いたします。これからもよろしく願いいたします。
- いろいろと工夫をしていただき、お手伝いいただいていることに非常に感謝しています。
- 本事業を行うにあたり、教育委員会の担当の皆様には、事前の計画、準備、当日のご配慮まで、学校の負担も考慮いただきながら本事業を進めていただき感謝しております。児童は、ふるさと夢プロジェクトを通して、ふるさとの「人・もの・こと」のよさを再認識しています。それを価値付け、児童の資質・能力に繋げるのは学校の役割ですので、本事業がより充実したものになるよう努力いたします。引き続きよろしく願いいたします。
- 町教委（特に担当される方）には、本当にお世話になってありがたい事だと思っています。
- 安全第一です。
- 各学年ともに様々な活動をすることができ、ありがたいです。
- 北広島町で活躍されているいろいろな方のお話を聞く機会があってもよいのかなと思う。

学年ごとの事業の振り返り（管理職・引率職員等）

※枠内は管理職、他は引率職員

【4年生の「お宝発見ツアー」について】 （成果）

- 魅力ある町内のツアーであるので、今後も継続してほしい。
- 町内に住んでいても、普段は行くことかめったにない見学地に行くことで、ふるさと北広島町に対する愛着をもつことができました。

- 町内のお宝発見しながら、体験・体感できるのが非常にありがたい。社会見学ではできない内容ができるのもよい。
- ふるさと北広島で、こんな楽しい体験が出来ることを喜んでいました。北広島町の魅力を感じる事が出来たようです。特にジップラインは勇気を出して挑戦した児童にとっては、達成感を得ることで自信に繋がりました。
- 豊平以外の素晴らしさを知る機会があったのが良かった。
- 北広島の魅力満喫する事ができた。
- 町内に誇れる施設や企業等があることがわかり、子供達にとっても故郷への愛着が大きくなったと思う。
- 町内には、地元には無い様々な施設があることを知ることができた。
- 社会科の学習と関連した内容について学ぶことができた。
- 各校の希望に応じて、見学地が選択できるので、今のやり方は有り難く、良いです。
- 魅力ある町内のツアーであるので、今後も継続してほしい。
- 色々学校要望通りやっていただきありがたいと思います。

- 北広島町の自然を活かした遊びや北広島町特有の自然を見る触るなど学ぶことができた。北広島町にはこんな良いところがあるんだということを感じることができた。
- 子供たちが北広島町の良い場所、頑張っている人を知ることができた。
- 社会科の学習で花田植について調べたり、まとめたりしていたので、子どもたちもとても興味を持って話を聞くことができていた。また、詳しい話を聞いたり実際のものを見たりすることでより理解が深まっていた。
- 豊平の地域のことは総合的な学習や社会科で学習する機会がありましたが、なかなか行く機会がない北広島町図書館などの公共施設や地元の企業を訪問し、直接関わっている方々のお話を聞くことで、北広島町の新たな良さを知ることができました。
- 子どもたちは北広島町のステキをたくさん見つけるという目的で見学をし、その目的をおおむね達成することができた。また、見学先の方々は、お忙しい中、とても丁寧に対応してくださり、子供たちは、楽しみながらたくさんのお話を学ぶことができた。
- 同じ町内ながら行ったことのない所へ行くことができ、北広島町の魅力に気づくことができていた。集団で活動することを通して、ルールを守ることもできた。
- 自分たちが住んでいるところを見たり聞いたり体験することで、新たに知ることができた。良さを再実感できた。また知らない児童もいたので、知る機会になった。
- 北広島町の自然を活かした魅力について児童も知ることができていたと思います。体験箇所でもたくさんのお話をしていただいたり盛り上げていただいたりしたことで、楽しく活動できていました。
- 本校児童にとっては知らないことを詳しく知れたので、継続できたらと思います。

(課題)

- 新規開拓をするには情報が乏しい。
- メニューを選べるのは良いが、メニューによって引率者の人数が違ってくるのがなかなか人数もさくことができなくて困った。基本は担任と管理職1名の引率でできるようにしていただければ助かる。
- 今年度たまたまだとは思うが、ドミニカと一緒にの日程になってしまい、本校の4年生は参加したくてもできない状況だったので、先に決まっていた日程を優先させてほしい。
- 雨天の場合の代替え見学地をあらかじめ設定しておくことの必要を感じました。今回は、急遽、オオアサ電子さんが直前の雨天時でも対応可能であると言っていたため、とても助かりました。町外から来た(夢プロ初体験)担任にとっては、初めての行事であるため、目的等、十分な周知と事前の連携が必要であると感じました。

- 子供たちにしっかり目的をもって行かせたり、実態に合うように教師も声かけをしたりフォローをしたりすることが大切だと思います。見学先におんぶに抱っこでは、いけないと思います。
- SuiSuiのスタッフさんと、上手く連携がとれておらず、もったいない時間の使い方をしてしまったので、担任が見通しを持って参加するべきだと思った。
- テングシデの見学一天候が悪く、バスの中で話を聞いてから、現地に行った。話の方が長くなり、木

をゆっくり見る時間がなくなってしまった。

- まちづくりセンター一体調不良の児童が多くなり、一度延期したので仕方ない面もあったが、大半がホールの中で竹とんぼを飛ばして遊ぶ時間になり、地域の良さを感じるという目的から外れてしまった。(蔵書点検の時と重なり、図書室が利用出来ず残念だった。)
- 目的を検討する必要があるのではないか。
- 他の場所などもあるのであれば、定期的に更新していただいたら様々な場所に行けて故郷学習の一環になりそうです。

(取組の工夫と改善点)

- ◎計画立案前に4年担任の情報交換会(オンライン)の開催はどうでしょうか?
- ◎ジップラインは、北広島ならではの体験であるため、次年度も行きたい場所です。本事業の目的を達成するためには、やはり、事前指導が大切になってくると思いますので、見学地のパンフレット、動画資料等、児童に対する指導に使えるツールがあればより深まると思います。(事前指導の充実は、学校(担任)が取り組まなければならないことはいまでもありません。)
- ◎民泊のように、何校かグループで一緒に行き行って交流に時間を作るのもありかもしれません。
- ◎計画を立てる前に前年度の夢プロだよりや活動報告をよく読んで、どんな施設、企業が理解してから計画を立てるとさらによいと思う。なかなか時間が取れないので、学校で工夫していきたい。

- ◎他校と一緒に活動するなどあってもいいのではないのかなと思いました。学校の人数も関係あるのですが、他校の四年生と共に活動も学びがあるのではないかなと思います。
- ◎なんのための夢プロなのか、子供たちにどんな力をつけるために夢プロがあるのかをしっかりと実施することが大切だと思います。
- ◎社会科の学習と繋がりがあるところがとても良かったと思ったので、来年度にも生かしてもらえたらと思います。
- ◎例年通り、豊平以外の公共施設などを訪問する機会があれば、新たなお宝発見につながると思います。
- ◎ふるさとの良さを実感したり、深めたりするためには自分が日々生活している所のよさを確認することが有効だと思います。町村合併により北広島町というくくりでふるさとを位置付けていくことは、10歳前後の発達段階で果たしてふるさとといったときに本地の子が、芸北をふるさとと認識できるのか、いろいろと考えさせられます。

【5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～】

(成果)

- 北広島町の自然の豊かさや、人の温かさを実感でき、ますます北広島町のことが好きになりました。
- 芸北での様々な体験ももちろんですが、やはり民泊家庭とのふれ合いが子どもたちにとって一番の思い出でした。ふるさと北広島の人たちの温かさ、やさしさに触れることに本事業に係る価値があったと思います。(他学年の児童も5年生になったら民泊が出来ることを楽しみにしています。)
- 他校との交流が良かった。
- 親元を離れてたくましく自立する力につながった。北広島の魅力を再発見する事ができた。
- 本校は特に、各家庭が離れており、児童同士が地域で共同体験をすることが学校の学習以外ではできないということもあり、児童同士の結びつきも深まったようである。自分たちで地域の人との関わりを積極的に深めることができたことはとても良かった。
- 友達との共同生活を通して、協力することの大切さを学んだ。
- 自分で考えて行動することの大切さを学ぶことができた。

- 子供が地域の良さを知れる。
- 生活の中で友達と協力したり、気持ちを共有できたりすることができていた。
- 受け入れ家庭の方と良い関係を築くことができた。
- 民泊体験は子どもたちの心に強く残っているようで、楽しい思い出話に花を咲かせていることがしばしば見られます。
- 「同年代の子と寝食をともにすること」そのものが良い経験になっていました。活動前は「普段も田

舎なのに田舎体験・・・？」と思っている子もいたのですが、体験後はとてもよい思い出ができたと話していました。

- 芸北分校の生徒さんとの交流が良かったです。神楽好きの子も多いので、「数年先の自分の理想像」となってくれていました。
- 自然体験と地域の方との交流
- 林業体験では、班のみんなと協力して作業する楽しさを感じながら活動できていて良かったと思います。掴み取りの体験やはらわたを自分で取る作業についても日々「命」をいただきながら生活していることを実感できて良い体験だったと思います。
- 他校の児童や民泊家庭の方などたくさん関わりを持つことができたことや、自分で考えて行動することなど、普段ではできない体験ができたことは成果であり、子ども達の感想などからも伝わってきました。
- 学校生活で、民泊体験で学んだこと(人に対する礼儀、友達同士での関わり合い、日常で使える知識など)を、学校生活で活かしている場面が見受けられました。

(課題)

- 暑さ対策。
- 熱中症の心配をしています。
- 活動内容が担当学年以外の職員に浸透していないこと。
- 泊に慣れていないためか、体調を崩しやすい。
- 宿泊先によって体験の差がある程度あるのは仕方ないと思うが、例えば料理を一緒にするなど、必ず入れてもらうなどがあれば少しは揃うかと思う。
- 民泊家庭での過ごし方には、あらかじめの約束の徹底が必要であったと感じています。そこは、次回年度に向けての本校の課題です。夜間の児童の緊急対応に係り、やはり管理職の現地宿泊が必要である(保護者の安心感も含めて)と感じました。その場合、宿泊費の負担が生じますが、素泊まりで対応できたらと思います。
- 他校の子どもと宿泊すると良いのではないかと思う。
- アレルギー事故が起きてしまったことから、このような事故が二度と起こらないようマニュアルを見直すこと、学校間連携を図ること、学校の職員の参加体制を整えることなど危機管理を高めていかなければならないと感じている。連携をオンラインや電話連絡などで行う事が多かったので、対面で行う必要性も感じた。

- 熱中症対策など危機管理体制。
- 地域の凄さやよさの実感よりも楽しかったの感想で終わってしまう。
- 仕方がないことなのですが、3日目が郡教研の日と重なっていたので、職員の動き等調整が必要でした。
- 開催時期
- 統一するのは難しいかもしれませんが、民泊先によって体験することが大きく違うと疑問に思う児童もいるように感じました。
- 実施場所は、もしもの時に備えて病院などが近くにある場所が安心・安全かなと思います。
- 暑い盛りなので水辺に行きたい気持ちがありますが、水難事故のことを考えると・・・とためらってしまいます。
- 「キャンプファイヤー」の体験もさせたいですが、「職員の負担」を言われるとこれもためらってしまいます。こういうのが好きな方ならいいのかもしれませんが・・・。自分が担任をするとは限らないため、「楽しいけれど職員の負担もそれなりに増える」活動を提案すべきか迷います。

(取組の工夫と改善点)

- ◎管理職 1 人は現地宿泊する。
- ◎緊急連絡網を作成する。
- ◎アレルギー対応をより一層丁寧に行い、成分表の事前提出を義務付ける。
- ◎児童には宿泊についての事前指導を徹底し、家庭の理解と協力を得る。
- ◎6年生の修学旅行の予行としても宿泊体験を位置づける。
- ◎これまでの担当職員以外にも引率させたい。
- ◎民泊前に保護者に夏休み中の過ごし方に配慮いただくよう伝える。(繰り返し)
- ◎来年度から夏休みなので、管理職はもちろん担任以外も参加して、児童の安全確保に努めたいです。
- ◎暑い時期なので、スポーツドリンクやタブレットなどの支給が毎日あると良い。
- ◎芸北分校とのメニューは夏休みで難しいと思うので、B & Gのプールのメニューなどで換えてはどうだろうか。どんぐり財団から講師などを招くのも良いのではないか。
- ◎以前、5年生の宿泊メニューには防災関係のメニューも入っていた。防災関係のプールの講師を招くのも良いと思う。
- ◎体育館のメニューは暑いと思うので、できるだけしない方向で、熱中症の危険を避けられるようにしたらよいのではと思う。
- ◎山の子だから、海を体験させたいです。宿泊を北広島町に帰る、もしくは江田島青年の家でも職員も宿泊できると思います。
- ◎児童の顔合わせなど、1学期中に計画の中に位置づいていたら良い。これまで、学校や担任によって事前連携が異なっていた。
- ◎時期が変更となり、熱中症の心配も予想される。マニュアルを十分に見直す必要があると思う。また病気怪我の対応だけでなく、災害なども含めた危機管理マニュアルの作成と周知が必要であると感じる。
- ◎夏季休業中は、担任以外の職員も参加しやすいというよさはあるが、年休の取得を推奨している点からは課題も感じている。
- ◎夏季休業中ではあるが、枠が決められていて、2校での日程調整が少し難しかった。

◎夜にみんなで集まってキャンプファイヤーなどすれば盛り上がるかと思います。

◎2日目の午前中に登山を行う。散策でもよい。

◎高校生のみなさんとの関わりや、他校との関わりを増やすと、より課題解決する力につながるのではないかと感じました。

◎他校との関わりが多く取れる絶好の機会なので、他校のいろいろな児童との関わりがたくさん取れる内容があればなと思います。

【6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」について】

(成果)

○講演会もロケット制作も、6年生にふさわしい内容だと思います。

○毎年同じメニューではあるが、非常に心に残る講演とロケット制作であるので、継続してほしいと思う。

○植松さんのお話は毎回子どもの心に残り、子どもの心の指針となっている。

○毎年思いますが、植松さんの講演は子どもたちに勇気を与えるととても素晴らしいお話です。また、他校の6年生とのロケットづくりを通じた交流も、中学進学に向けてとてもよい機会となっています。

○講師の先生の話が6年生にマッチして素晴らしい。

- 夢を持つことの大切さを6年生という節目でお話を聞く事ができ、将来について希望を持つ事ができる良い機会であった。
- 他校との児童と交流する事ができ、友達の輪が広がった。中学校入学前に貴重な時間であった。
- 夢に向かって努力し続けてきた方の生の声は、児童の心に深く刺さったようだ。その後のいろいろな活動の様子、振り返りの中でも「夢プロロケット事業」での経験が生かされていると感じられた。
- 今回、講演を初めて聞かせてもらったが、とてもよいお話だった。夢を実現させるために必要なことを学ぶことができた。
- 5年生は、6年生になったらロケットを飛ばすことが出来ると楽しみにしています。引き続きの取組に期待をしています。
- 植松さんの講演は、毎年聞いても感動を覚えます。継続して欲しいです。
- その年その年の児童にとっては、はじめての話、体験でとても新鮮かつ、有意義な時間になると思う。

- 児童が将来に向けて、考えられる内容で、キャリア教育の一貫となった。折に触れて子どもたちと話げできた。
- 夢プロジェクトという観点で見れば、夢を叶えたり、努力することの大切さが伝わったりと、子どもたちの思い出として刻まれるものだと思います。
- 植松さんの生き方や経験、そして子どもたちに語りかけてくださるようなお話の仕方に、心に残ることが多くあったようです。挑戦や失敗から学ぶことについて、今後の自分の生活に活かしたいとふりかえりに書く児童が多かったです。また、他校の児童との関わりで、緊張や恥ずかしさという殻を破って、自分から関わることに自信を持たせた児童が多かったです。
- 植松先生の講話は、6年生の心に響く内容で、子どもたちは将来に向けて勇気や希望を感じることができていた。
- ロケット制作は、同じグループになった他校の友達と、少しずつではあるが会話が生まれていて、貴重な交流の場となっていた。
- 昼食中に、ロケットを総点検していただき、ありがたかった。
- ロケット打ち上げは、天候も持ち直し、全員が体験できてよかった。
- 植松先生の講演から、夢や希望を持って努力することの大切さを学ぶことができた。
- 植松さんの講演の内容がわかりやすく、ロケット製作も意欲的に行っていました。
- 植松さんの話は、毎回アップデートされていて、これからも子どもたちに聞いてほしい。

(課題)

●なぜロケットを飛ばすのか形式的になってきたか？植松さんの話を、どう自分の生活と結びつけて聞くことができているかが課題です。事後指導が大切になると思います。植松さんのお話から、自分はどう考えるのか、自分のよいところはどこなのか、そのよさをどうしたら伸ばすことができるのかなど、自己をしっかり振り返らせることが本事業の目的達成に必要であると思います。

- ふるさとという観点で見れば、ふるさとを好きになるとか誇りに思うということが直結しているのかなと正直思います。
- 可能かはわかりませんが、わかりやすい説明書である程度、自力でできる子もいたので、難易度が上がると、更に関わらざるを得ない状況が生まれたかなと思いました。
- 例年、講演中、児童はメモを取れないが、心に響いた言葉を書き留めながら聴くこともよいのではないかと感じる。その方が、事後の学習にもつなげやすい。
- ロケット制作では、組み立て後に色を塗らなければならない姿が多く見られた。自分だけのデザインを試みようと思うように、声かけや事前の働きかけが必要ではないか。

- 同じ班の児童との関わりがもっと多くもてれば良いなと思いました。(時間が少ないので難しいですが)
- ロケット作りで、もっと子どもたちに試行錯誤させたい。関わり合う必然性のあるものになると良い。
- 製作時間をもう少し長くする。
- 子どもがお客にならないように、子どもにとっての学びになるよう工夫が必要。
- その日だけの学習になるのがもったいないと感じる。

(取組の工夫と改善点)

- ◎心に残る話なので、メモできれば心にもっと残ると思います。
- ◎植松さんの本が配架されている学校もあると思うが、講演と重複するので見せるのは講演後が良いと思う。(感動が薄れるので)
- ◎卒業生対象に成果の検証ができれば良いと思います。(成人式が丁度良いかと)
- ◎今年度は中止のときのロケット飛ばしがなかったが、毎回、雨天打ち上げ中止のときに学校で飛ばす場所がなくて難儀する。(飛び過ぎで学校敷地から出てしまう)雨の場合は、中止のときの場所を考えるよりは、火薬の威力を少し下げたものを取り付けるなどでは難しいのだろうか・・・と思う。
- ◎コロナの時のように、ロケットの打ち上げは、各校でできれば良いと思います。

- ◎今のままで良いです。
- ◎児童同士の交流が盛んになればと思います。時間の都合があるのは承知ですが、アイスブレイクや簡単なゲームをしてほぐしてから、作成に移ると、よりワイワイした楽しい作成時間になるのではないのでしょうか。
- ◎特にありません。ありがとうございました。今後もよろしく願いいたします。
- ◎昼食後の動きについては、今年度のように、弁当を食べ終わった児童から、すべての荷物を持って、グループのテーブルで色塗りの仕上げをしたりグループの友達と交流したりして待つように指示をすると良いと思う。
- ◎ロケットづくりの活動で、たくさんの大人が周りからじっと見つめており、「教えて」と気軽に言える雰囲気ではないので、もっと児童が関わりを持ちやすい雰囲気づくりができると良いと思いました。
- ◎時間にもう少し余裕があれば良いなと思いました。
- ◎植松先生のお話は、ぜひ子どもたちに聞かせたいものだから今後も継続してほしい。しかし、ロケットを作って飛ばすことが、作業になってしまっているようにも感じる。より子どもたちにとっての学びにしていくために、子どもたちがお互いに関わりあう必然性のある活動にする。そのために、製作時間をしっかり確保するなど工夫ができると良い。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」中学校事業について



芸北中学校

大朝中学校



千代田中学校



豊平学園 後期課程



北広島ふるさと夢プロジェクト事業は、町内小中・義務教育学校で地域の資源（ヒト・コト・モノ）を生かし、発達段階に応じた学習を行っている。「ふるさとを愛し、誇りをもつ心を育てる」ことを目的に掲げ、事業の計画を行い、実施している。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（芸北中学校）

1. 実施した活動について

実施した活動：芸北茅プロジェクト

日時：令和6年5月16日（木）～12月7日（土）

場所：芸北地域

人数：中学校1・2年生18名、教員9名

ねらい：芸北に生えている茅（ススキ）を利用することで、伝統的な建築物の保存のための技術を伝えるとともに、ススキ原の生物を守り、地域通貨の流通を通じて地域を活性化させる。このことにより、生徒たちが地域の資源や自然、経済について学ぶ。



2. 生徒の感想

この茅プロがここまで長く続けられているのは、地域の人や先輩たちの努力の結晶なんだということがわかりました。「地域の人と協力する」という活動を経験できて良かったと思いました。「茅」を通して地域力になれていいなと思いました。また「意志力」が特に身についたと思いました。前までは自分の考えに自信を持つことができななかったけど、友達に聞いたり、事前確認をしっかりと行ったりして自分の考えに自信が持てるようになりました。



3. 活動を終えて

何年も続いている取組で、茅葺き屋根の建物の見学から始まり、これらの文化財を守るための茅をどのようにして集めるかを考え、広報活動を決めていきました。また今年度は生徒達が話し合い、茅プロの組織を作り、活動を行ってきました。12月7日の茅金市場では茅束147束を持ってきて頂きました。芸北茅プロジェクト実行委員会の保護者や地域の方との連携を密にすることでたくさんのお力添えを頂きました。生徒たちもたくさんの茅を集めることができ自信になったと思います。ありがとうございました。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（大朝中学校）

1. 実施した活動について

1年生が国の天然記念物であるテングシデ群落について学び、カレンダー販売を通してPR活動を行った。主に次のような活動を行なった。

- 集落支援員からテングシデの希少性や保存活動について話を聞く。
- 地元の画家の指導のもとにスケッチをする。
- 町の広報担当者から構成やデザインのポイントについて、話を聞く。
- 広島市内で、テングシデについての聞き取り調査と販売価格についてのアンケート調査を行う。
- 販売のリハーサルを行い、学校運営協議会の方々に助言をいただく。
- 道の駅（北広島町、安芸高田市）で販売活動を行なう。



2. 生徒の感想

テングシデのことをたくさん知ることができてよかった。／カレンダーのデザインを工夫したり、価格設定のことを考える活動が楽しかった。／カレンダー販売を通してテングシデのすごいところを宣伝することができてよかった。



3. 活動を終えて

「はじめてテングシデを見た（知った）」という生徒が多いところからスタートした取組だったが、そこから「テングシデの魅力発信」という課題にむけて地元の方々の協力を得て、意欲的に活動することができた。一連の活動を通してテングシデの魅力や大朝のよさに気づくことができた。

令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（千代田中学校）

1. 実施した活動について

1年生の総合的な学習の時間に「地域にあったらいいもの」と題し、中学生として自分たちが地域に貢献できるものを考え作成し、地域へ実際に還元するという取組を行った。

○生徒からは様々な意見が出たが、その中で「モルックセット」が選ばれ、技術の時間で作成した。

○作成したモルックを実際に地域の複数の施設に寄贈した。

2. 生徒の感想

○自分たちで考えた「地域にあったらいいもの」について、出したアイデアが実際に採用され、自分たちで作り、地域の人に贈ることができてよかったです。

○（モルックの）贈呈式の時、参加してくれた方がすごく喜んでくれたのがうれしかったです。

○いつか施設に行って、贈ったモルックで実際に遊んでみたいです。

3. 活動を終えて

昨年度は「住みたい町の提案」という題で実際に提案した「クリスマスツリーの設置」を行うことができた。そして今年度は「地域にあったらいいもの」について生徒自身が考え作成し、地域に贈ることができた。こうして生徒が地域のためにできることを考え、自分たちで作って、地域へ還元する。このような取組は今後もぜひ続けていきたいと考える。



令和6年度北広島ふるさと夢プロジェクト 活動報告（豊平学園）

1. 実施した活動について

1月に1回、そば打ちクラブに所属する10人の生徒が豊平どんぐり村にあるそば道場「どんぐり庵」に集まり、豊平手打ちそば保存会の方に指導を仰ぎながら、豊平の伝統文化のそば打ちに取り組みました。11月に行われたそばまつりでは、2日間にわたって出店をしました。呼び込みや盛り付けなど、全員で協力して1000食以上売り上げることができました。年に数回実施される豊平流そば打ち段位認定会では、より上位の段位を取ることを目標に練習に取り組み、見事合格することができました。今後もよりおいしいそばを打てるよう努力します。



2. 生徒の感想

そばまつりでは、前回に比べて2日で1000杯のそばを売り上げることができたこと、ずっと立って販売することはとても大変なんだなということに気づくことができ、いい経験になりました。/ 去年（6年生）と比べて打つ量が多くなり、技術も多く必要になってきたが、そば打ちの工程の一つの延しが上手くできるようになり、切りもだいたい均一に切れるようになった。/ そばまつりで打ったそばを色んな人に食べてもらって嬉しかった。お客さんに出すそばだから一つ一つの工程を意識して打つことができた。



3. 活動を終えて

地域の保存会の方に指導していただく良い機会になっています。生徒は皆そば打ち自体を楽しんでいて、中でも段位認定に挑戦する生徒は目標を持って取り組んでいます。また、何より家に持ち帰り食べる楽しみがあることが意欲につながっています。そばまつりでは、お客さんの目の前で実際にそばを打ち、生徒が地域を盛り上げている様子を見ていただくことができました。

お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「夢を持ち、ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに貢献したいと思う子どもの育成」を目的としています。

これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通じて町内あるいは近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行い、本町の豊かな自然・歴史・文化を生かして児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子どもの育成を図ってきました。

小学校事業では、4年生は町内お宝発見ツアー、5年生は芸北地域での民泊、6年生は株式会社植松電機代表取締役の植松努さんによる、「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」講演会を行う事が出来ました。

中学校事業でも各学校によるキャリア教育の推進を踏まえた上で事業を行っています。これらの「体験活動」を実施することにより町内の仲間意識の醸成も図られてきています。5年生の民泊では、町内の高校生との異年齢交流を行い、児童にとって非常に思い出に残る活動になったのではないかと思います。

少子高齢化が進む中、改めて人と人のつながる社会の必要性を考えるとところです。北広島町がめざす「ふるさと学習」では、町内の児童・生徒の中に「北広島町の大切な人の顔、場所、思い出がどれだけ浮かぶ教育ができるか」が重要な点だと考えています。人口減少と人口流出が進むわが町にとって、郷土愛の創造はよりいっそう重要な課題となっています。新しい生活様式のなかでも、ふるさと「北広島町」で活躍する大人たちと様々なかたちで触れ合うことで、ふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。

北広島ふるさと夢プロジェクト事業も、今年度で10年目の節目を迎えました。効果検証を行いながら、引き続き事業を実施していきたいと思っています。

今後も、子どもたちが予測のつかない社会の中でも、たくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

北 広 島 ふ る さ と 夢 プ ロ ジ ェ ク ト 応 援 隊
副 隊 長 増 田 隆
(北 広 島 町 教 育 委 員 会 教 育 長)